

令和6年2月1日
教育委員会指導部高校教育課

福岡市政担当記者各位

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議報告書について

専門学科を有する市立高校のあり方を検討するにあたり、社会経済の変化や生徒及び産業界のニーズに迅速かつ的確に対応するため、学識経験者等から意見を聴くことを目的として「専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議」を設置し、令和5年8月から令和6年1月までの間に5回開催いたしました。

このたび、その結果を取りまとめた報告書が、別添のとおり提出されましたのでお知らせします。

記

1 構成

- I 高等学校を取り巻く環境の変化
- II 福岡市立高校の現状と課題
- III 福岡女子高校の今後のあり方
- IV 博多工業高校の今後のあり方

2 内容

別添「専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議報告書」のとおり

問い合わせ先

教育委員会高校教育課

担当 大坪

707-2190(内3910)

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議

報 告 書

令和6年2月

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議

はじめに

AI や IoT (Internet of Things) などの技術革新、産業構造や社会システムの急激な変化がグローバルに進み、高等学校が育成を目指すべき生徒の資質・能力が変化してきています。

「専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議」においては、このような社会の変化等に適切に対応するため、計5回にわたり、育成する人材、設置学科、教育内容及び制度等について議論を重ね、今般、取りまとめました。

今後は、この報告書をもとに、学校と一体となって、魅力のある高校づくりを進めていただくよう希望いたします。

令和6年2月
専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議
会長 山田政寛

目次

I	高等学校を取り巻く環境の変化	P 3
1	高等学校の状況	
2	社会経済状況の変化と今後の高等学校教育のあり方	
II	福岡市立高校の現状と課題	P 11
1	福岡市立4校の志願倍率の推移	
2	専門学科を有する市立高校の現状等	
3	普通科、総合学科の市立高校の現状等	
4	生徒のニーズ	
5	委員意見	
III	福岡女子高校の今後のあり方	P 19
1	確認事項	
2	他都市の事例	
3	委員意見	
IV	博多工業高校の今後のあり方	P 25
1	確認事項	
2	他都市の事例	
3	委員意見	
	参考	P 33

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議設置要綱

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議委員名簿

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議開催経緯

資料

資料1	市立高校の生徒を対象としたアンケート調査結果	P 36
資料2	全国の共学化の状況	P 51
資料3	他都市における家庭科の学科改編の状況	P 54
資料4	他都市における工業科の学科改編の状況	P 55
資料5	P-TECH 事業	P 56
資料6	他都市における専攻科の事例	P 57
資料7	公立高等専門学校の学科・コースの状況	P 58
資料8	高等学校、専攻科、高等専門学校の比較	P 59

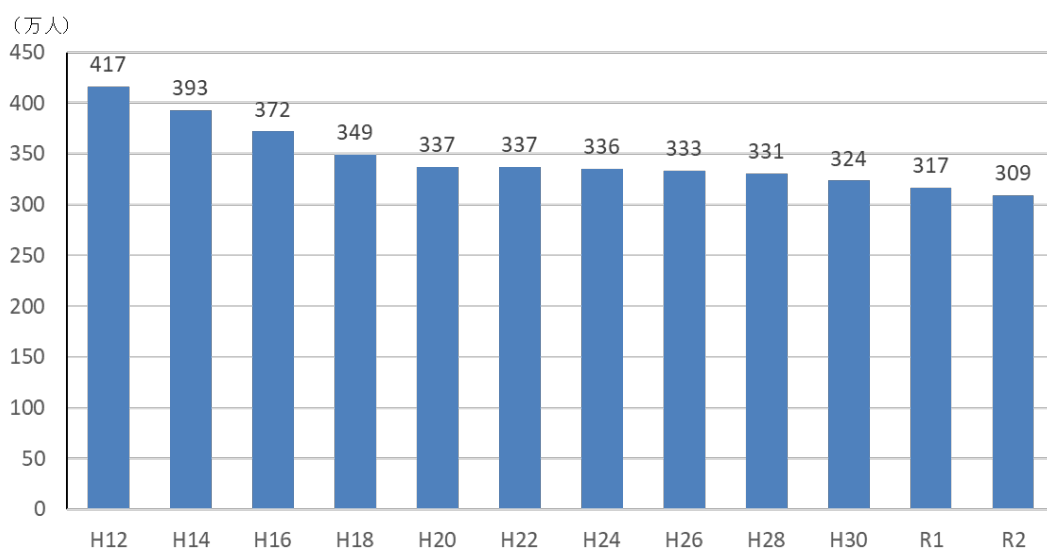
I 高等学校を取り巻く環境の変化

1 高等学校の状況

(1) 全国の状況

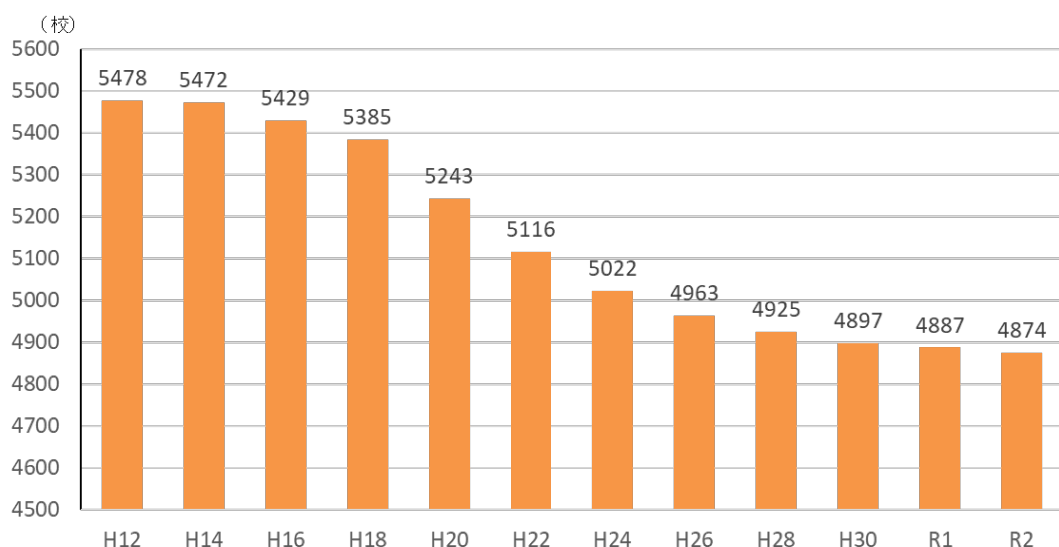
- 全国の高等学校の生徒数は、平成12年（2000年）に417万人だったものが、令和2年（2020年）には309万人となっており、この20年間で約100万人減少している。
- これに伴い、全国の高等学校数は5,478校から4,874校に減少しており、そのほとんどが公立高校の減少によるものとなっている。

《全国の高等学校生徒数》



(文部科学省「学校基本調査」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

《全国の高等学校数》

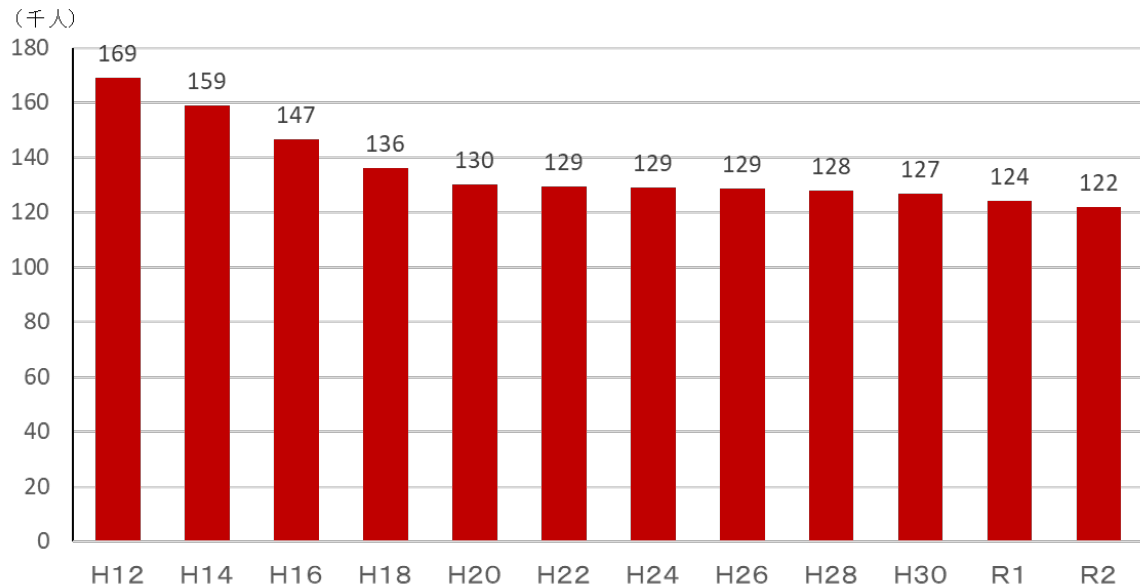


(文部科学省「学校基本調査」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

(2) 福岡県の状況

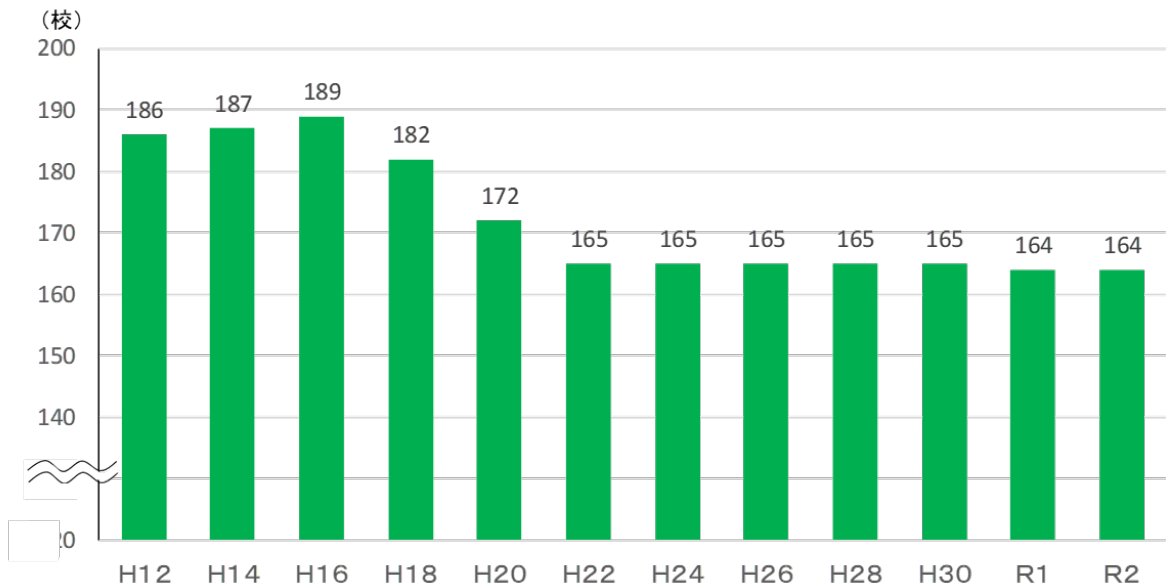
- 福岡県の高等学校の生徒数も、平成12年(2000年)に約17万人だったものが、令和2年(2020年)には約12万人に減少している。
- これに伴い、生徒数が減少した学区で、県立高校の統廃合が行われており、県内の学校数の合計も186校から164校に減少している。

《福岡県の高等学校生徒数》



(福岡県「学校基本調査」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

《福岡県の高等学校数》

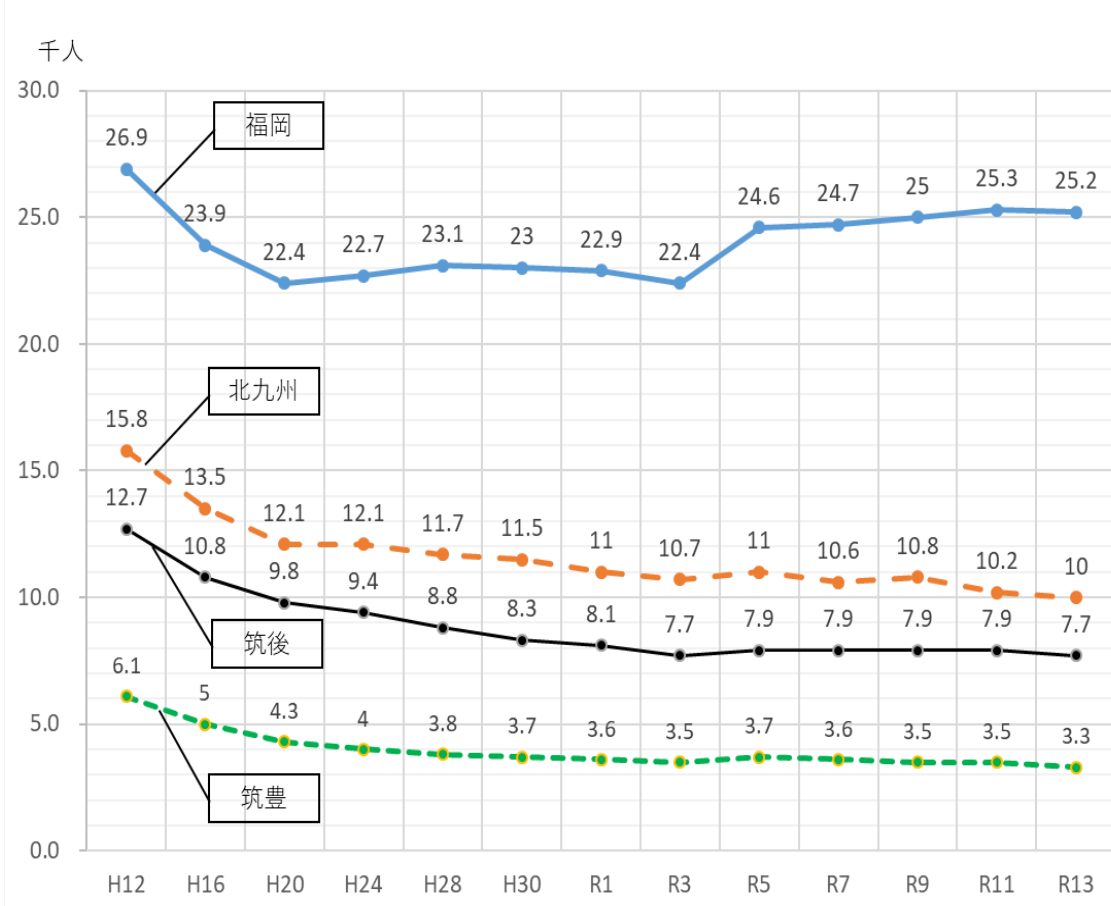


(福岡県「学校基本調査」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

(3) 福岡地区・市の生徒数の状況

- 福岡地区における高等学校の生徒数は、国や福岡県全体の動向とは異なり、当面の間、増加傾向にあるものの、2030年代からは減少に転じる見込みである。

《福岡県内 中学校卒業者数の推移（地区別）》



※令和4年3月までは実績、令和5年3月以降は推計

※各地区に含まれる学区は次のとおり

北九州地区・・・第1、2、3学区	福岡地区・・・第4、5、6学区
筑後地区・・・第7、8、9、10学区	筑豊地区・・・第11、12、13学区

(福岡県教育庁「令和5年度県立高等学校入学定員について」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

《福岡市の年齢別人口》

年齢	R5. 3. 31 現在の人口	現在の学年	→	高校1年生となる年度	R5. 3. 31現在の 高1との差
0歳	11,979	—	→	R20年度（2038年）	▲ 2,228
1歳	12,719	—	→	R19年度（2037年）	▲ 1,488
2歳	12,626	—	→	R18年度（2036年）	▲ 1,581
3歳	13,122	—	→	R17年度（2035年）	▲ 1,085
4歳	13,450	—	→	R16年度（2034年）	▲ 757
5歳	13,897	—	→	R15年度（2033年）	▲ 310
6歳	13,910	小学1年生	→	R14年度（2032年）	▲ 297
7歳	14,461	小学2年生	→	R13年度（2031年）	254
8歳	14,200	小学3年生	→	R12年度（2030年）	▲ 7
9歳	14,416	小学4年生	→	R11年度（2029年）	209
10歳	14,139	小学5年生	→	R10年度（2028年）	▲ 68
11歳	14,250	小学6年生	→	R9年度（2027年）	43
12歳	14,404	中学1年生	→	R8年度（2026年）	197
13歳	14,275	中学2年生	→	R7年度（2025年）	68
14歳	14,105	中学3年生	→	R6年度（2024年）	▲ 102
15歳	14,207	高校1年生			

（福岡市「住民基本台帳（外国人含む）」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成）

（4）委員意見

- ・ 少子化の進展によって、福岡県立高校では平成15年度から山間地を中心に統合・再編が行われているが、福岡地区では、これまで統合・再編はなく、学校単独の学科再編等を行っている。
- ・ 福岡地区の生徒数は、今後も微増傾向にあるものの、令和14年頃からは減少に転じる見込み。
- ・ 学校や学科のあり方などについては、将来的な人口減少や社会経済情勢の変化等も見据えながら、検討を進めていくべき。

2 社会経済状況の変化と今後の高等学校教育のあり方

新しい時代に対応した高等学校教育を模索していくにあたっては、社会経済の急激な変化に伴い、育成が期待される資質・能力も変わってきており、将来の世の中の変化なども見据えて、高等学校教育のあり方を検討していく必要があるとされている。

(1) 令和2年11月13日付け中央教育審議会初等中等教育分科会「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）」（一部抜粋）

- 人口知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが劇的に変わる Society5.0 が到来しつつある。
- 人口減少の加速化や高齢化の進行により、特に地方においては、地域社会の担い手の減少とともに、消費市場の縮小による地方経済の縮小など、様々な社会的・経済的な課題が生じており、地域社会の持続可能性が危惧されている状況でもある。
- 技術革新・産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化に伴い、専門高校での育成が期待される資質・能力も変わってきており、今後とも大きく変わることが考えられる。

(2) 令和4年5月、経済産業省公表資料「未来人材ビジョン」における将来の労働需要の推計（一部抜粋）

- 「問題発見力」や「的確な予測」等が求められるエンジニアのような職種の需要が増える一方、事務・販売従事者といった職種に対する需要は減る。
- AI やロボットで代替しやすい職種では雇用が減少するが、代替しづらい職種や、新たな技術開発を担う職種では雇用が増加する。

(3) 令和3年1月26日付け中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（一部抜粋）

3. 新しい時代に対応した高等学校教育等の在り方について

(基本的な考え方)

- 高等学校は義務教育機関ではないものの、既に進学率が約99%に達し、今日では中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学する教育機関となっている。それゆえ、高等学校には多様な入学動機や進路希望、学習経験、言語環境など、様々な背景を持つ生徒が在籍していることから、義務教育において育成された資質・能力を更に発展させながら、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要である。
- 産業構造や社会システムが「非連続的」とも言えるほどに急激に変化しており、少子化の進行によって、高等学校としての教育的機能の維持が困難となっている地域・学校も生じているなど社会経済の有り様を踏まえた高等学校の在り方の検討が必要である。

(各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化)

- 高等学校は、義務教育を修了した生徒が入学者選抜を経て入学するものであることから、各高等学校が育成を目指す資質・能力を明確にするために、各学校の設置者が、各学校や所在する地方公共団体等の関係者と連携しつつ、在籍する生徒の状況や意向、期待に加え、学校の歴史や伝統、現在の社会や地域の実情を踏まえて、また、20年後・30年後の社会像・地域像を見据えて、各学校の存在意義や各学校に期待されている社会的役割、目指すべき学校像を明確化する形で再定義することが必要である。

(「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化(普通科改革))

- 現行法令上、「普通教育を主とする学科」は普通科のみとされているが、約7割の高校生が通う学科を「普通科」として一括りに議論するのではなく、「普通教育を主とする学科」を置く各高等学校がそれぞれの特色化・魅力化に取り組むことを推進する観点から、各学校の取組を可視化し、情報発信を強化するため、各設置者の判断により、当該学科の特色・魅力ある教育内容を表現する名称を学科名とすることを可能とするための制度的な措置が求められる。

(産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成

(専門学科改革))

- 技術革新・産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化に伴い、修得が期待される資質・能力も変わってきており、今後とも大きく変わることが考えられる中、地域の持続的な成長を支える最先端の職業人育成を担っていくには、加速度的な変化の最前線にある地域の

産業界で直接的に学ぶことができるよう、産業界と高等学校と一体となった、社会に開かれた教育課程の推進が重要である。

○具体的には、これまでの企業等の外部講師の招へいやインターンシップ等の連携から更に進化し、経済団体等の産業界を核として、地域の産官学の関係者が一体となり、将来の地域産業界の在り方を検討し、その検討の中で、専門高校段階での人材育成の在り方を整理し、それに基づく教育課程の開発・実践を行うことが必要である。

○専門高校を卒業後に大学や専門学校等に進学する生徒も少なくないことから、高等教育機関等と連携し、先取り履修等の取組の推進も考えられる。また、地域の産業界、行政が一体となって考える地域の将来構想においては、専攻科制度の活用や高等専門学校への改編も視野に入れた、必ずしも3年間に限らない教育課程の開発・実施や、高等教育機関と連携した一貫した教育課程の開発・実施の検討も考えられる。

(新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進)

○近年の技術革新に伴い、産業界で必要な専門知識や技術が日々変化している現代においては、特定の専門分野のみならず様々な分野に関する知識・技術が求められる。多くの開設科目から主体的な選択履修が可能であるという特徴を有する総合学科においては、自分とは異なる興味・関心を持つ生徒と共に多様な科目を履修することで、自らの進路を見つめ直しつつ、多様な分野に関する知識及び技能や異分野と協働する姿勢といった、これからの時代に求められる資質・能力を育成することが期待されている。

(STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成)

○AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日においては、これまでの文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められている。

4. 新時代の特別支援教育の在り方について

(高等学校における学びの場の充実)

○制度化されて間もない通級による指導の充実やその指導体制、指導方法の確立など、特別支援教育コーディネーターや通級による指導の担当教師を中心に、校長のリーダーシップのもと、学校全体で高等学校

における特別支援教育の充実に取り組むことが重要である。その際、特別支援教育コーディネーターや通級による指導の担当教師をはじめとする教師の資質向上のための研修や、全校の教職員及び生徒の特別支援教育に関する理解を促す取組も重要である。

○特別支援学校の有する自立活動の指導のノウハウや、障害のある生徒の就職等に関する知見が活用され、それぞれの児童生徒に応じた適切な指導及び必要な支援が行われるよう、高等学校が特別支援学校との連携を強化することが必要である。

(4) 委員意見

- ・ 収入ベースの制限はあるものの高校授業料実質無償化の影響により、公立高校のメリットが失われつつあることから、魅力向上の取組が必要である。
- ・ 技術革新が進み、デジタルが普及していく中、社会を支えるインフラとして IT・デジタル人材が今後、大量に必要となってくる。
- ・ 社会課題などに対して、IT・デジタルをツールとして使いこなしていく力が必要で、また、課題の本質を問う力、理解する力を養いながら、課題解決につながる学びが重要となってくる。学びの構築にあたって、産業界と連携しながら、企業の力を活用するのも一つの手段ではないか。
- ・ 今後、情報活用能力やデジタルスキルが重要となってくる。併せて、女性活躍や課題解決型の創造的な学びを組み合わせ、IT・クリエイティブ人材の育成に取り組んでいくべき。
- ・ インクルーシブ教育は大切であり、障がいのある生徒向けの教育プログラムを市立小学校で展開すると学習パフォーマンスが向上するという研究を行ったが、特別支援教育で蓄積されたノウハウを全市的にどこまで展開できるのか課題がある。
- ・ 高等学校は、入試があることや単位認定を共通カリキュラムで行う必要があることから、特別支援学級の設置は困難だと思うが、障がいのある生徒に対する受験時の配慮や通級指導などの充実に、引き続き、取り組んでほしい。

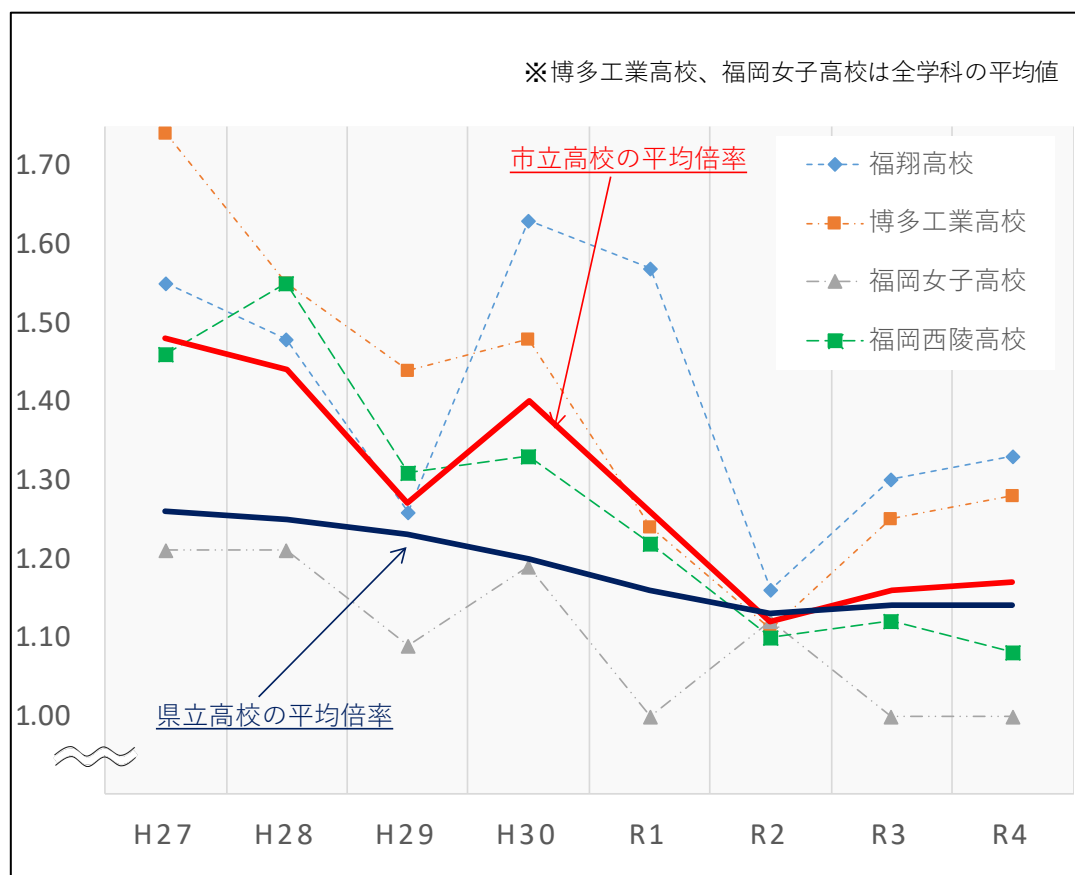
Ⅱ 福岡市立高校の現状と課題

1 福岡市立4校の志願倍率の推移

- ・ 志願倍率は、平成27年度以降、年によって増減はあるものの、福岡県立高校の場合と同様に概ね低下傾向にある。
- ・ 一方で、福岡地区の高等学校の生徒数は、当面の間、増加傾向にあることから、多くの生徒が市立高校への進学を希望するよう、学校の改革・魅力向上に取り組んでいく必要がある。

《市立高校の志願倍率の推移》

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
福翔高校	1.55	1.48	1.26	1.63	1.57	1.16	1.30	1.33
博多工業高校	1.74	1.55	1.44	1.48	1.24	1.11	1.25	1.28
福岡女子高校	1.21	1.21	1.09	1.19	1.00	1.12	1.00	1.00
福岡西陵高校	1.46	1.55	1.31	1.33	1.22	1.10	1.12	1.08



(福岡市教育委員会高校教育課調べ)

2 専門学科を有する市立高校の現状等

(1) 福岡女子高校

① 学校の概要、近年の学科改編の状況

- ・ 現在、定員は960名（320名・8クラス×3学年）で、6学科で構成されている。
- ・ 学科改編の状況としては、平成6年に国際教養科を新設するとともに、食物科を食物調理科に、被服科を服飾デザイン科に、保育科を保育福祉科に、家政科を生活情報科に改編。また、平成25年に普通科に看護進学コースを開設した。

学科	服飾デザイン	食物調理	保育福祉	生活情報	国際教養	普通	計
定員	40	40	40	40	40	120	320

② 卒業後の進路（令和4年度の状況）

- ・ 進路状況としては、大学進学が23.5%、短大が16.8%、専門学校が40.7%、就職が10.9%、留学等その他が8.1%となっている。
- ・ 就職内定率は100%。

③ 特色ある取組み

- ・ 専門学科の家庭科では、調理師免許などの資格取得に向けた取組みが充実。国際教養科では英語のほか、第2外国語として中国語またはハングルを学習、普通科は上級学校進学に向けた学習活動を実施。
- ・ 愛宕浜、能古島、姪浜商店街、西区役所等の地域と連携した探究学習を実施。
- ・ 能古島のJAや農家の方と規格外の甘夏を有効活用する協働プロジェクトなどを実施。また、校外での実習や見学など体験的学習を多数実施。

(2) 博多工業高校

① 学校の概要、近年の学科改編の状況

- ・ 現在、定員は840名（280名・7クラス×3学年）で、6学科で構成されている。
- ・ 学科改編の状況としては、平成2年に印刷科学科を画像工学科に、電子科を電子情報システム科に改編。また、平成15年に機械科と自動車工学科、インテリア科と建築科、画像工学科と電子情報科を、入学者選抜において一つにまとめ、2年次からの学科選択制とする類・コース制を導入した。（平成27年度末廃止）

学科	機械	インテリア	建築	画像工学	自動車工学	電子情報	計
定員	80	40	40	40	40	40	280

② 卒業後の進路（令和4年度の状況）

- ・ 生徒の64%が主にものづくり系の企業に就職しており、就職内定率は100%。また、進学を希望する生徒は36%おり、近年、微増傾向にある。
- ・ 就職者のうち約半数が、市内企業に就職しており、1割が福岡市を除く県内企業、4割が県外の企業に就職している。

《博多工業高校 卒業生の進路（R4）》

	就職			進学			その他	計		
	市内	県内	県外	大学	短大	専門学校				
卒業生数	172 63.9%	87	18	67	96 35.7%	22	6	68	1 0.4%	269

③ 特色ある取組み

- ・ 学科の特性を生かした資格取得で、ジュニアマイスター顕彰制度への取組みを実施。
- ・ 自動車工学科では、空気駆動自転車を製作し、令和2年度に、「世界最速自転車」に認定。また、インテリア科では、油山の間伐材や樺の実・油などを生かし、「油山活性化プロジェクト」を推進。ブランドロゴを商標登録。（令和3年度）
- ・ 進学コースでは、国公立・私立大学工学部入学、高等専門学校編入を目標に進学指導に特化した授業や活動を実施。

3 普通科、総合学科の市立高校の現状等

(1) 福翔高校

① 学校の概要等

- ・ 現在、定員は 960 名（320 名×3 学年）で、総合学科の 1 学科構成となっている。
- ・ 学科改編の状況としては、平成 12 年に全学科（商業科、情報処理科、普通科）を総合学科に改編した。また、平成 25 年に進学型コース制を導入している。
- ・ 令和 4 年度の卒業生の進路は、大学進学が 71.4%、短大進学が 3.6%、専門学校等が 16.6%、就職が 4.5%、進学浪人等が 3.9%となっている。

② 特色ある取組み

- ・ SDGs 実現に向けて生徒自ら課題を見つけ、グループで課題解決につなげていく「SDGs チャレンジプロジェクト」を実施。
- ・ 資本金 2 万円の会社を設立し、会社の仕組みを学ぶことができる「SCP 経営演習（スチューデントカンパニープログラム）」を実施。

(2) 福岡西陵高校

① 学校の概要等

- ・ 現在、定員は 960 名（320 名×3 学年）で、普通科の 1 学科構成となっている。
- ・ 学科改編の状況としては、昭和 50 年の開校以来、普通科で改編は行われていないが、平成 17 年に 1 学年あたりの学級数を 10 から 8 に減。また、平成 25 年に特進クラスを開設した。
- ・ 令和 4 年度の卒業生の進路は、大学進学が 77.5%、短大進学が 3.9%、大学校・専門学校等が 11.4%、進学浪人が 6.5%、就職が 0.7%となっている。

② 特色ある取組み

- ・ 内閣府や文部科学省と共同し、ICT を活用した学習支援プログラムを導入。
- ・ 地域や社会の課題解決に取り組む探究学習、未来創造型探究プログラム等を推進。また、語学研修や短期留学などの国際交流を推進。

4 生徒のニーズ

令和5年9月～10月に、市立4校の生徒を対象にアンケート調査を実施した。ここでは、専門学科を有する福岡女子高校と博多工業高校における、主な調査結果を示す。(詳細は、資料1参照)

(1) 福岡女子高校

- ・ 高校選択時に重視することは、「設置されている学科・コース・教育内容(23.5%)」が最も高く、「制服(10.9%)」も3番目に高い。また、「女子高校(5.6%)」の回答割合は低い。
- ・ 生徒の74%は、進学を希望(4年制大学:31%、短期大学:15%、専門学校:28%)しており、就職希望者の割合は10%となっている。高校生として身につけたいことは、「基本的な学力(15.3%)」「自分が興味のある分野の専門的な知識・技能(13.4%)」「進学に対応できる学力(12.0%)」が高い。
- ・ 専門学科における改善点・必要なこととしては、「学科の専門性に特化した実習の時間を増やす(23.3%)」、「資格取得につながる学習や実習等を充実させる(17.8%)」となっており、また、「進学に対応できる学習の機会を増やす(13.8%)」も全体の3番目に高い。

(2) 博多工業高校

- ・ 高校選択時に重視することは、「設置されている学科・コース・教育内容(21.5%)」が最も高い。
- ・ 卒業後の進路は、生徒の約60%が就職、24%が進学(大学:8%、短期大学:1%、専門学校:15%)を希望している。また、高校生として身につけたいことは、「就職に活かすことができる知識や技能(18.7%)」が最も高い。
- ・ 専門学科における改善点・必要なこととして、「学科の専門性に特化した実習の時間を増やす(25.7%)」、「資格取得につながる学習や実習等を充実させる(20.3%)」となっており、また、「企業などから専門的な技術を学ぶことができる(13.2%)」も全体の3番目に高い。

5 委員意見

(1) 市の施策との連携

- ・ 市の施策や課題と連動しながら、社会（地域）課題解決能力の育成やリーダーシップを養う学びが重要となってくる。
- ・ 福岡市の特色、地域課題と接続するような学びが重要である。スタートアップの活用や企業や大学等との連携など、知識・技術を課題解決のためにどう活用するのか、福岡市立ならではの学び・特色が必要ではないか。

(2) 学びの内容

- ・ 専門分野の学びは今後も必要であるが、社会経済状況の変化に対応できるよう、学科の魅力化を図ることが喫緊の課題である。
- ・ 生徒は、自分の興味・関心や進路希望に応じて学びたい教科・科目を選択できることを望んでおり（詳細は、45 頁参照）、多様な学びの提供が求められている。
- ・ 一番大切にすべきはカリキュラム。残していく伝統はあるものの、学科名称は社会変化に即して柔軟に変えていく必要がある。
- ・ 福岡市立学校の英語教育として、小・中学校での英語文化に触れる学びと、各市立高校のカリキュラムが連携するような戦略的な取組みが必要ではないか。

(3) 学校運営

- ・ 市に市立高校が4校あることが強みとなっており、これからも4校それぞれが差別化を図りながら、特色を出していく必要がある。
- ・ 生徒から選ばれ続ける学校となるため、例えば、「Well-being」の視点での指標の設定など外から見える化しながら、魅力ある学校経営をすべき。
- ・ その学校に進学することで、「どこの大学に進学できる」「あの企業に就職できる」などの情報やそのために学校が取り組んでいること、学校の特色を発信していくことが重要である。
- ・ 生徒同士や生徒と教員がコミュニケーションをとりながら対話的な学びの機会を増やしたり、生徒から小グループで学校の課題を出し合ってもらい、学びの改善につなげていく仕組みがあってもいいのではないか。
- ・ 様々な課題やいろいろな人がいること、社会の多様性を知ることが重要であり、例えば、学校間での合同学習など、市立4校の連携や交流を強化していくべき。
- ・ 不登校の生徒が増え、通信制を選択する生徒も増加している。今後の取組みにあたり、この視点を持つことも大切ではないか。
- ・ 教職員の負担を軽減するために、IT・デジタルの活用が必要。また、生徒によりよい教育を提供するために、教職員のメディアリテラシー・探究学習の指導力の育成が重要である。

(4) 各学校について

① 福岡女子高校

- ・ 保育科の公立高校を希望する男子生徒は福岡女子高校を選べない。女子高校としての長い歴史もあるが、社会の変化に合わせ、福岡市として、女子高校としての価値を改めて検討する時期に来ているのではないか。
- ・ 女子大学でも募集停止が増えている。女子高校から女子大学への進学を希望する場合は、「出口」の観点でも狭くなってきている。
- ・ 福岡女子高校は、大学進学を希望する学生が多い一方で、実際の大学進学率は低い。今のカリキュラムが生徒のニーズに合致していないのではないか。
- ・ 3年間、同じ専門学科を学ぶことや同じクラスメイトと過ごすことに不安感を持つ中学生がいるため、入学後の学科変更（学びの選択制）の検討が必要である。
- ・ 学科によって志願倍率に差があるため、定員の見直しも検討する余地があるのではないか。

② 博多工業高校

- ・ 博多工業高校の卒業生のうち就職する割合は64%で、職業教育については一定の成果を上げている。また、全国的にも工業高校入学者の進学率は上昇してきており、進学は大学・短大が10%、専門学校が25%と進学指導の成果も見えてとれる。
- ・ 一方で、工業高校の3年間だけでは専門性が狭い学びとなっている面は否めない。
- ・ 他都市では、進学に対応できるコースの設置や、工科高校への学校名称の変更、IT関連企業や専門学校等と連携したIT人材育成など、多様化する生徒の希望に応えている事例がある。
- ・ 福岡市内の、様々な技術やテクノロジーを教える大学や専門学校等と連携していくことも考えられるのではないか。

③ 福翔高校

- ・ SCP 経営演習等、素晴らしい取り組みが実施されているが、より経営の難しさと面白さが分かるように予算規模を拡大して実施することを検討してみてはどうか。商品企画から販売までしっかり取り組み、その成果（赤字・黒字）まで、把握する必要がある。
- ・ 商品開発にあたって、博多工業高校と連携し、3Dプリンタを活用したプロトタイプの開発など、今後の展開が期待される。
- ・ 平成12年度に総合学科に改編しており、学科改編等の抜本的な見直しの必要性はないと考えられる。

④ 福岡西陵高校

- ・ 「探究」学習は面白いチャレンジをしているが、STEAM 教育の「Art : 芸術」の視点をもっと取り入れ、最終的には生徒が考えたものを実際に社会実装し、モノとして出すことで、より学びが深くなるのではないか。
- ・ ICT 端末を活用したハイブリッド型授業は福岡市立小中学校でも実施しており、連続性がある、長けている部分。生徒たちの ICT スキルも向上しており、今後の伸長も期待できる。
- ・ ICT 活用実践を全国に先駆けて取り組むなど評価でき、学科改編等の抜本的な見直しの必要性はないと考えるが、志願倍率が低下しており、魅力の向上が必要である。

Ⅲ 福岡女子高校の今後のあり方

1 確認事項

- ・ ジェンダー平等の社会変化に対応し、性差による入学制限の可否の検討が必要である。
- ・ 多くの学科で、近年、募集定員割れが発生しており、各学科の教育内容が中学生や社会のニーズに合わなくなりつつある。
- ・ 各学科に合わせて資格取得等を推進しているが、必ずしも、その後の進路に結びついておらず、専門学科の学びに沿った進路選択率は61%（令和4年度）となっている。
- ・ 専門学科においても卒業後に就職する生徒は少なく、生徒の大半が進学しており、進学するための学力が備わる学びの提供が必要である。

《福岡女子高校の志願倍率の推移》

	H30	R1	R2	R3	R4
服飾デザイン科	1.00	0.83	0.80	0.95	1.00
食物調理科	1.10	1.13	1.28	0.93	1.23
保育福祉科	1.13	1.13	1.13	1.03	0.95
生活情報科	1.08	0.90	0.98	0.98	0.98
国際教養科	0.98	1.08	0.98	0.80	0.73
普通科	1.14	0.98	1.26	1.10	1.04

《福岡女子高校 専門学科の卒業生の進路（R4）》

	卒業生	大学	短大	専門学校	就職	その他
服飾デザイン科	27	1	1	16	5	4
食物調理科	38	8	6	14	9	1
保育福祉科	33	4	21	8	0	0
生活情報科	39	9	5	17	6	2
国際教養科	35	19	0	7	1	8
計	172	41 23.7%	33 19.1%	62 36.0%	21 12.2%	15 8.7%

2 他都市の事例

(1) 共学化の状況

① 国内の高等学校の動向

- ・ 全国の高等学校数は、4,727校（令和4年5月1日現在。分校および生徒のいない学校は含まない）である。うち共学高校が4,356校、男子のみの高校が97校、女子のみの高校が274校である。
- ・ また、公立の高等学校数は3,403校で、うち共学高校が3,360校（98.7%）、男子のみの高校が14校（0.4%）、女子のみの高校が29校（0.9%）である。
- ・ 平成3年（1991年）から令和4年（2022年）までの間、全国で、女子のみの公立高校が共学化・統廃合・閉校した事例は100件以上あった。なお、この中には、もともと男女共学であったものの、女子のみしか在籍していなかった学校が実質的に共学化した事例も含まれる。（詳細は、資料2参照）

② 共学化の理由等

- ・ 群馬県において、令和3年3月に策定された「第2期高校教育改革推進計画」によると、次のとおり、男女共学の推進の基本的な考え方が示されている。

- 男女が共に学ぶことの意義や、性差による制限のない学校選択の保障という観点に加え、性同一性障害や性的指向・性自認に係る生徒への対応の必要性などからも、男女共学化を推進していく必要があります。
- 「群馬県男女共同参画基本計画」を踏まえ、県民の理解を得ながら、今後の高校教育改革の中で、男女共学化を推進します。

(2) 学科改編の状況

- ・ 家庭科においては、総合学科への改編や食物科から調理国際科への改編などの改革が行われている。（詳細は、資料3参照）

3 委員意見

(1) 共学化

- ・ 女子高校の歴史は尊重されつつも、共学化の検討が必要ではないか。
- ・ 男女共同参画社会、ジェンダー平等などの社会の流れの中で、共学化が必要。なお、共学化にあたっては、別学教育の良さへの考慮が必要。
- ・ 共学になっても、「多様性へのケア」は大切な視点。
- ・ 性別による「らしさ」が求められることで、生きづらいという声もある。性別による固定的役割が求められない、新しい学校づくりが求められるのではないか。
- ・ 共学化するにあたっては、全国の共学化した事例を参考にしながら、教育内容を見通した上で検討すべき。
- ・ 共学化するには、これまで培ってきた女子高校での教育のノウハウをしっかりと発揮できる学校づくりが必要。
- ・ 女子高校での教育として「女子のリーダーシップ」があげられるが、仮に「共学では女子がリーダーシップを取れない」ということがあれば、そちらのほうが課題だと思う。
- ・ 共学の学校でも、女子生徒が生徒会長や運動会のブロック長を担うことは珍しいことではない。福岡女子高校が培ってきたリーダー育成のノウハウは、共学の中でも生かすことができる。

まとめ

女子校としての歴史は尊重されるべきであるものの、ジェンダー平等の社会変化の中で、共学化が必要である。共学化にあたっては、教育内容も見通した検討やこれまで女子高校で培ったノウハウを発揮できる新しい学校づくりが求められる。

(2) 学科改編

- ・ 学科制には、生徒の人間関係の固定化というデメリットがある。
- ・ 高校志願時に、中学生がどの程度、自分の進路を見通して学科を選択できているのか疑問がある。生徒の興味関心により、入学後に学びを選択できるような学科改編が必要となる。
- ・ 総合学科へ改編し、1年次では共通カリキュラムを学び、2年次でコースを選択するような仕組みがあってもいいのではないか。
- ・ 生徒たちは、1年次は必要な素養を身につけ、学びの中で自分の興味関心に応じてフレキシブルに選択できるような仕組みがあるとよいのではないか。
- ・ 普通科と専門学科を置いているが、それぞれの学科で進路先が非常に多岐にわたる。進路が多岐にわたることは魅力であり、改編にあたって、生

徒の幅広い進路選択に対応できる学科にすべきではないか。

- ・ 学科改編にあたって大切なのは「出口」。「出口」に魅力がないと、生徒は集まらない。例えば、「この学校でないと、〇〇にはなれない」、このような魅力のある学校が望まれる。
- ・ 福岡女子高校がこれからも女子校として存続するとしても、新たに工学分野や理系分野の学びを設けるなど、新しい意思を示すことが必要。
- ・ 福岡女子高校の設立の趣旨・目的に「家庭科」があると思うが、いまだはずれが生じていると思う。女子高校のままでいくとしても、この目的やビジョンを変える必要がある。

まとめ

専門学科のある学校であっても、生徒が入学後に学びを選択できるような学科改編が必要である。総合学科に改編し、1年次では共通カリキュラムを学び、2年次で専門を選択するような仕組みが求められる。

改編にあたっては、生徒の幅広い進路選択に対応できる多様なコース設定等が必要である。

また、仮に、今後も女子高校として存続するとしても、社会の変化により開校当初の設立目的と齟齬が生じており、工学分野や理系分野などの学びを新設するなど、新しい学校像を示す必要がある。

(3) 新しい学び

- ・ 「クリーン」「スマート」「Well-being」などの価値観は市の施策とも親和性が高い。ビジョンを大枠で固め、学び・科目に落とし込んでいくことで、新しい挑戦ができる学校づくりができる。
- ・ 例えば、食物とビジネス、国際と観光が掛け合わされた学びは、これからも求められる人材育成につながると思う。
- ・ 少子高齢化の時代においては、保育や看護などの保健福祉の分野にも、AIの活用など、いわゆる工業や科学を含めた、STEAM教育の視点も取り入れる必要がある。
- ・ 家庭科という枠組みの中に、ファイナンスや法律など経営的な視点や地球環境への配慮、クリーンや衛生、工学的な視点を取り入れるなど、多様な学びを提供することが必要ではないか。
- ・ 博多工業高校とオンラインでつないで授業をすることで、福祉と工学が融合した学びが生まれ、リソースの有効活用にもつながる。

まとめ

市の施策とも親和性の高い、「クリーン」「Well-being」などの価値観を学び・科目に落とし込んでいくことで、学校としても新しい挑戦ができる。

例えば、ビジネスや観光、AIなどの工学や科学、ファイナンスや法律を含む家庭経営の視点、環境への配慮、他校との交流など、多様な学びを提供することが必要ではないか。

(4) 既存の学びの見直しの視点

- ・ 家庭科教育は、これからの時代でも必要になる学び。この強みを生かしながら、差別化を図ることも考えられる。
- ・ デザインをベースにして、カリキュラムを設計していくといいのではないか。また、「稼ぐ」能力を育成するカリキュラムが必要ではないか。
- ・ 家庭科で培われる技術を持った人材は、国際的な視点で見ると、技術移転の人材として重宝される。グローバルな視点やマインドを合わせて学ぶことで、国際的な舞台でも活躍できるようになるのではないか。
- ・ デザイン力はあらゆる分野に必要で、服飾デザイン科は洋服のデザインだけでなく、空間デザインやUI/UX デザインを押し出すことが考えられる。
- ・ 食物調理科は、調理師免許が取得できるという特色がある。例えば、寿司のようなコンテンツを入れて、「グローバルに稼ぐ」という視点があってもいいのではないか。
- ・ 保育福祉科は保育士や介護福祉士の資格取得ができない。入学後に他の学びを選択できないことが、生徒の可能性を狭めてしまうのではないか。また、保育を教育という概念で括り直すと、教育に関する法律などの学習にもつながるし、出口も見えやすくなるのではないか。
- ・ 生活情報科は、汎用的にたくさんの資格を取得するのではなく、「尖り」が必要。また、学習内容が、情報、マナー、食生活が横並びになっており、何をどこまで学ぶことができるのか判然としない。学びの内容を精査する必要があるのではないか。
- ・ 国際教養科は、いい授業をしているが、希望者が少ないという課題があるため、募集人数を減らして、リソースを他の学科にも活用しながら継続していくのがいいのではないか。
- ・ グローバル標準や時代に合った学科・学びにアップデートする必要がある。

まとめ

家庭科教育にグローバルな視点を合わせて学ぶことにより、国際的な活躍が期待されるなど、家庭科の強みを生かしながら、他校にはない特色を出していくことが考えられる。

また、デザインをベースにしたカリキュラム設計や、自立のために社会から求められる能力の育成、グローバルな視点での英語教育の充実などが求められているのではないかと。

(5) 大学進学への対応

- ・ 福岡女子高校の生徒や教員が求める大きなテーマに、「自立」と「進学」があると感じた。
- ・ 総合型選抜に対応できるよう、デザイン、保育、調理などのコンテンツを活かしたPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）学習が必要ではないか。
- ・ 生徒の希望進路と実際の進路とのギャップの分析や、市内の進学先の大学や専門学科の学びを調査するなどして進学後の学びとのギャップの分析が必要ではないか。

まとめ

専門学科の生徒も進学を希望しており、進学に対応できるカリキュラムの検討をするとともに、総合型選抜に対応するため、デザイン、保育、調理など、学校の強みを活かしたPBL学習を進めていく必要がある。

検討にあたっては、生徒の希望進路と実際の進路の違いや、進学先の大学等での学びとのギャップを分析する必要がある。

IV 博多工業高校の今後のあり方

1 確認事項

- ・ 博多工業高校は、現行の学科が約 30 年間変わっていない。市内の情報通信業の従業者数が、平成 13 年の約 3 万 5 千人から、令和 3 年には約 5 万 4 千人に増加する（総務省統計局 経済センサス）など、市内の産業構造も変化してきており、学科によっては、教育内容が社会のニーズにあわなくなりつつある。
- ・ 令和 4 年 5 月に経済産業省が公表した「未来人材ビジョン」によると、将来の労働需要について「情報処理・通信技術者」や「開発・製造技術者」の需要が増加することが見込まれている。これらの変化も踏まえ、教育内容を検討していく必要がある。

《将来の労働需要の変化》

目指すべき高成長シナリオでは、2050年において、
特徴のはっきりした労働需要の変化が確認された。

「職種」・・・ 事務従事者 42% 減少
販売従事者 26% 減少
情報処理・通信技術者 20% 増加
開発・製造技術者 11% 増加

「産業」・・・ 卸売・小売業 27% 減少
製造業 1% 減少

(経済産業省ホームページ「未来人材ビジョン」から一部抜粋)

2 他都市の事例

(1) 学科改編

- ・ 工業科においては、IT やロボットなどの学び・コースの設置など、産業界のニーズ変化等を踏まえた改革が行われている。(詳細は、資料4 参照)

(2) 社会に開かれた教育課程の事例

- ・ 愛知県においては、グローバル化、デジタル化の進展に伴う産業界のニーズの変化を踏まえ、令和3年4月より工業高校等の14校を「工科高校」に名称変更するとともに、「IT工学科」「環境科学科」「ロボット工学科」等の学科を新設・拡大している。
- ・ 東京都においては、「Society5.0を支える工業高校の実現に向けたNext Kogyo START Project」が進められ、新たにロボティクスコース、IT環境科、都市防災技術科、食品サイエンス科などの学科の設置や企業等との連携推進、工業高校15校の「工科高等学校」への名称変更(令和5年度)などに取り組んでいる。また、令和3年度からは、一部の工科高校において、「Tokyo P-TECH」(詳細は、資料5 参照)が実施されている。

(3) 3年間に限らない教育課程

① 専攻科

- ・ 他都市では、山梨県立甲府工業高校や愛知県立愛知総合工科高校など、9校(12学科)で工業系の専攻科が設置(福岡市教育委員会高校教育課調べ)されている。(詳細は、資料6 参照)
- ・ 平成28年度より専攻科から大学への編入が可能となった。

② 高等専門学校

- ・ 高等専門学校は実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関で、全国に国公立合わせて58校ある。設置者別の内訳は国立が51校、公立が3校、私立が4校であり、全体で約6万人が学んでいる。
- ・ 公立の高等専門学校においては、機械、電気、情報などの学科・コースが設置されている。(詳細は、資料7 参照)
- ・ また、高等専門学校と専攻科は教員資格等に違いがある。(詳細は、資料8 参照)

3 委員意見

(1) 学科改編

- ・ 福岡市にとってどのような人材が育ってほしいか、また、国際的にみてどのような技術が必要とされているかを踏まえて、あまり細分化せず、幅広く学ぶことのできる学科構成が望ましいと思う。
- ・ 工業高校への求人は多く、既存の専門的な学びや人材は求められている。一方で、今の求人状況が今後も続くとは限らない。テクノロジーの飛躍的な変化がある中で、今後も社会から求められる人材像も見通したうえで、学科構成の検討が必要である。
- ・ インテリア、建築、自動車工学などの今ある学科でも、これからは情報技術にも長けていないと立ち行かなくなる。その意味でも、1年次は、総合的に工業の基礎全般を学ぶことができる学科構成が望ましいのではないか。
- ・ 他都市の事例のように括って募集するというのはいい考えだと思う。
- ・ これからの社会の変化にも柔軟に対応できるよう、学科構成にフレキシビリティを持たせることも必要ではないか。学科横断的に学ぶことができる、柔軟な運用が求められる。
- ・ 中学生の進路希望を見ていると、卒業後の「出口」がイメージしやすく、専門性が感じられる学科を選択する傾向にあると感じられる。

まとめ

今の求人がこれからも続くとは限らず、今後も求められる人材像や必要とされる技術を踏まえた、学科の検討が必要である。

インテリア、建築、自動車などの分野でも、これからは情報技術にも長けている必要があり、学科横断的に学ぶことが求められる。入学後に専門的な学びを選択できるよう、1年次は、総合的に工業全般の基礎・基本を学ぶことができる学科構成が望ましい。

テクノロジーの飛躍的な変化がある中で、変化に柔軟に対応できるよう、学科構成にフレキシビリティを持たせることが求められる。

(2) 新しい学び

- ・ 現在の潮流に合わせた技術者、IT系の技術者を育成することは非常に有為である。
- ・ 今後、人口減少する中で、サービス維持のため自動化が進む。福岡市は商業都市で、情報通信系の業務で相応の技術者が必要になると予測される。
- ・ 情報ネットワークやファームウェアなどの技術者は、日本全体で見ても不足している。この点に強みを持つ学科は特色になる。
- ・ 第1次産業でも、「スマート農業」が求められる中で、技術者が不足し

ているという話を聞く。求める人材像を検討する際には、第1次産業に目を向けることもあっていいのではないか。

まとめ

人口が減少する社会において、サービス維持のため産業界での自動化が進む。情報通信系の技術者の需要増が予測され、また、第3次産業だけでなく、第1次産業でもIT分野の技術者が不足するなど、IT人材への需要は高く、IT人材を育成していく必要がある。

(3) 既存の学びの見直しの視点

- ・ 建築業界では人材が不足しており、工業高校の必要性は高い。労働力不足の観点からも専門分野の学びは、さらに社会から求められてくるのではないか。
- ・ 一方で、例えば、自動車のEV化で、部品の設計や製造に関する仕事が減っていくという未来も見えてきている。
- ・ カリキュラムを検討する際には、卒業後の就職先も踏まえたうえでの検討が必要ではないか。地域や市内・都市圏の事業者が求める人材とのずれが生じないように検討する必要がある。
- ・ 全国的な傾向として、3年以内の離職率は5割くらい。離職・転職があることを前提に、高校3年間でも、生活を営むことができるスキルを身につける必要がある。
- ・ いまの高校生に需要があるからといって、これからも同じ教育をしていいのか。高校生は卒業するとき成人する。いかに自覚をもって学ぶことができるかという視点で学びを設計する必要があるのではないか。
- ・ 基礎的な技術を教えるだけでなく、その基礎的な技術がどのように応用され、社会で活用されているかまで生徒に教える必要がある。
- ・ 市の中小製造業に資するという視点では、英語に強いエンジニアの育成は今後望まれている。また、英語が堪能なエンジニアは世界的にも求められている。
- ・ 工業高校においても、日本語、英語にかかわらず、読解力の強化が必要だと思う。
- ・ キャリア教育として、単に技術を習得するだけでなく、メンタリティやレジリエンス（回復力）も意識できるような学びが必要となる。
- ・ 生徒の興味関心をテクノロジーで実現できる、そのようなサポートや学びが提供できるのは工業高校の特色でもあり、新しいイノベーションが起こるきっかけとなる。
- ・ 技術は日々進歩している。教育委員会にも、最先端のカリキュラムを学ぶことができる環境を整えていくことが求められる。

まとめ

建設業界では人材が不足するなど、労働力不足の観点から、建築などの専門分野の学びは社会から求められている。一方で、例えば、自動車のEV化などにおいて、部品の設計・製造に関する仕事が減る未来も概観され、社会が求める人材とのずれが生じないよう学びの内容を検討する必要がある。

単なる技術の習得だけでなく、語学、読解力、メンタリティを身につけられるような学びを設計するとともに、生活を営むスキルも身につけることが求められる。

教育委員会には、学校をサポートし、生徒が最先端のカリキュラムを学ぶことができる環境整備が求められる。

(4) 大学進学への対応

- ・ 全国的には専門高校の約3割の生徒が進学を希望しており、今後も大学受験を希望する傾向は続く。進学も含めた、生徒たちの多様な学びに対応する仕組みづくりが必要である。
- ・ 工業高校での学びは、多様な進路選択に柔軟に対応することが可能である。例えば、就職希望の生徒の進学への進路変更や学んだ内容と別の分野の大学等への進学も可能である。
- ・ 高校、高等専門学校、大学とある中で、高校はエントリーの部分。基礎力を養うことで、今後の応用力にもつながっていく。
- ・ 中学生の中には、家庭の事情から、資格を取って社会に出ていくため、専門学科のある高校を選択しているという事情もあるが、入学後に、生徒が進学してもっと学びたいと思ったときに、サポートできることが大切だと思う。
- ・ 進学の見点で、総合型選抜に対応できるよう、プロジェクトベースで、プログラミングやアプリケーション、AIを活用するような学科構成が望ましい。工業高校の特性を活かしながら、受験にも強い学科改編をするのがいいのではないか。
- ・ 学んだテクノロジーをビジネスに活かすという視点で、工業高校から文系大学に進学できるようなカリキュラム構成も検討していただきたい。

まとめ

専門高校の生徒が大学進学を希望する傾向が続いている。高校において基礎的な学力を養いながら、生徒たちの多様な進路に対応していく必要がある。

大学進学にあたっては、プログラミング、AI など、工業高校の特性を活かした PBL 学習を進め、総合型選抜に対応することが求められる。

(5) 3年間に限らない教育課程

- ・ 工業高校の役割として、社会の潮流に適応した創造力のある技能・技術者の育成ということで、産業界を支えている。基礎的な機械、電気、建築などの分野では、3年間の学びで、技術を身につけた良い人材を輩出できている。
- ・ データサイエンス、AI などの分野は数学力が必要であり、3年間の学びでは不十分な面が否めない。
- ・ 例えば、AI 分野などについて人手不足は顕著で今後も伸びていきそう。ここにアプローチするにあたって、育成すべき人材像を定め、3年間に限らない教育課程を検討し、育成するための手法として専攻科、高等専門学校の設置などについての詳細な検討が必要ではないか。
- ・ スタートアップの創出・誘致やアートなど、市の施策とも連動して、どのような人材を育成するか、そのためにどのような形態が望ましいか、検討すべき。
- ・ 他都市とは産業構造が異なる。他都市の事例をそのまま適用すればいいというものではなく、市として支えるべき産業は何か、どのような技術者や人材を育成するのか検討する必要がある。
- ・ 生徒たちの進路、つまり次の「入口」、そこが良い「入口」なのか、先につながっているのか検討が必要である。

① 専攻科

- ・ いまの生徒の約6割が就職を希望しているニーズも踏まえ、3年間で卒業・就職できる学びと、専攻科2年を加えた計5年間で学ぶ学科・コースの設定が求められる。
- ・ 学びの分野が多岐にわたるなかで、一部の学びは、専攻科も含めて5年間で学ぶ仕組みにすることも一つの手法として考えられる。
- ・ 高校3年間に単純に専攻科2年間を足すのではなく、入学当初から5年間を見据えた学科・コースをデザインすれば、全国にも発信できる魅力・特色になるのではないか。
- ・ 専攻科で分野横断的な人材が育成され、さらに大学3年次に編入できるようであれば、価値のある取組みであり、大事な検討項目となる。

- ・ 3年間によらない教育課程ということであれば、進学者も念頭に置いた、カリキュラムの検討も必要ではないか。生徒たちの要求に応じていくためにも、進学に対応する多様な学び、5年制を検討するのは価値がある。
- ・ 専攻科検討にあたって、メリット・デメリットの精査が必要。学費、少人数教育、大学編入などのメリットがある一方で、高卒資格しか得られないなどのデメリットがある。
- ・ 「公設民営」の視点を踏まえ検討していただきたい。愛知県のように民営であれば、大学等からしかるべき教員が派遣されるし、質の高い教育が担保されるのではないか。
- ・ 高度なデータサイエンスや AI などの分野における人材育成を高校や専攻科でできないことはないと思うが、いまある高校の枠組みで学科をどう運営するか、高校の教員が教えられるのか、課題がある。

② 高等専門学校

- ・ いまの時代に合わせた技術を高校3年間で学ぶことができるかという、かなり難しい状況にあるのではないか。福岡市に、より高次の教育を行える高等専門学校が必要ではないか。
- ・ 福岡市は商業・ビジネスの街でスタートアップも盛んであり、実践的かつ創造的な技術者を育てる高等専門学校が福岡市内にあることは価値があるため、より高みを目指す検討をしてほしい。
- ・ 高等専門学校で学んだ人材が求められていることに疑いの余地はない。一方で、そのような人材は全国的にも求められていて、市内からエンジニア人材が流出していくのではないか。
- ・ 工業高校と高等専門学校では入学してくる生徒が異なると思う。これまで博多工業高校で学んでいたような生徒は遠くの工業高校に行かざるを得なくなる。これまで工業高校で培ったものを入れ替えてしまうことにもなり、慎重な検討が必要ではないか。
- ・ 高等専門学校設置による人材育成のメリットは感じるが、施設整備や教員の確保は課題であり、これらのことも踏まえ、議論を進める必要がある。
- ・ 工業高校に高等専門学校を併設して、いまあるリソースを最大限活用してコストを下げながら運営していくことも検討できるのではないか。

まとめ

機械、電気、建築などの分野では、3年間の学びで、技術を身につけた人材を輩出できているが、データサイエンスやAIなどの分野は3年間の学びでは不十分な面が否めない。

AIなどの分野での技術者の不足は顕著で、今後も伸びることが予想される。市の施策とも連動しながら、求められる人材像や3年間に限らない教育課程について、引き続き、詳細に検討すべきである。

(専攻科)

3年間で卒業・就職できる学びと、専攻科2年を加えた計5年間で学ぶ学科・コースの設定が求められる。カリキュラムの設計にあたっては、高校の3年間に、単純に専攻科の2年間に足すのではなく、入学当初から5年間を見据え一貫したカリキュラムを設計することで、他校にはない特色となる。

なお、検討にあたっては、高度なデータサイエンスやAIなどの分野を高校の教員が教えることができるかを含め、メリット・デメリットを精査するとともに、公設民営の視点での検討も必要である。

(高等専門学校)

今の時代に求められる技術を身につけるには、より高度の教育を行える高等専門学校が必要であり、福岡市内に高等専門学校を設置して、実践的かつ創造的な技術者を育成すべきである。

一方で、高度なIT人材は全国的にも求められており、育てた技術者が市外に流出することが懸念される。また、これまで博多工業高校が果たしてきた機能を全て入れ替えてしまうような改革は慎重に検討すべきである。

今後、施設整備や教員確保を踏まえた議論も必要であるが、既存のリソースを最大限活用する観点から、博多工業高校に高等専門学校を併設することが考えられる。

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議設置要綱

(設置)

第1条 社会の変化や生徒及び産業界のニーズに迅速かつ的確に対応するため、専門学科を有する福岡市立高等学校について、育成する人材、設置学科、教育内容及び制度等のあり方について検討することを目的として、有識者会議（以下「有識者会議」という。）を設置する。

(組織)

第2条 有識者会議は、企業関係者、教育関係者のうちから福岡市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の委嘱する委員をもって組織する。

- 2 有識者会議には会長及び副会長を置くものとし、委員の互選により選出する。
- 3 会長は、会務を総理し、有識者会議を代表する。
- 4 副会長は、会長が選任する。
- 5 副会長は会長を補佐し、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱された日から令和6年3月31日までとする。

(会議)

第4条 有識者会議は会長が招集する。ただし、第1回目の会議については、教育長が招集する。

- 2 有識者会議の議長は、会長が務める。
- 3 会長は必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。
- 4 委員は福岡市立高等学校全体のあり方等の第1条に掲げる目的以外の事項についても意見をすることができる。
- 5 有識者会議は、検討結果を教育長に報告する。

(会議の公開)

第5条 有識者会議は原則公開とする。ただし、会議における審議の内容が、福岡市情報公開条例第7条各号に掲げる情報（非公開情報）に関するものであるとき、又は、会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生じると認められるときは、この限りではない。

- 2 会議の傍聴に係る手続きその他傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第6条 有識者会議の庶務は、福岡市教育委員会指導部高校教育課において行う。

(その他の事項)

第7条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の運営に必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この要綱は、令和5年8月18日から施行し、令和6年3月31日をもってその効力を失う。

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議委員名簿

- 浅岡 由美 中村学園大学 流通科学部 流通科学科 教授
- 小笠原 治 株式会社 ABBALab 代表取締役、京都芸術大学 教授
- 土本 功 福岡大学 人文学部 教育・臨床心理学科 教授
- 中村 ゆみ 福岡市立香椎第3中学校 校長
- 春口 浩子 九州経済産業局 地域経済部 デジタル経済室 室長
- 松尾 慶太 福岡工業大学 情報工学部 情報通信工学科 教授
- 水野 雄介 ライフイズテック株式会社 代表取締役 CEO
- 山下 永子 九州産業大学 地域共創学部 地域づくり学科 教授
- ★山田 政寛 九州大学 データ駆動イノベーション推進本部 教授

(五十音順・敬称略)

(★会長)

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議 開催経緯

回 (開催日)	議 事
<p>第 1 回 (令和 5 年 8 月 24 日)</p>	<p>○有識者会議の運営について ○高等学校を取り巻く環境の変化について ○市立高等学校の現状等について</p>
<p>第 2 回 (令和 5 年 10 月 16 日)</p>	<p>○今後の方向性について</p>
<p>第 3 回 (令和 5 年 10 月 30 日)</p>	<p>○福岡女子高校、博多工業高校の今後のあり方について</p>
<p>第 4 回 (令和 5 年 11 月 6 日)</p>	<p>○博多工業高校の今後のあり方について</p>
<p>第 5 回 (令和 6 年 1 月 17 日)</p>	<p>○報告書（案）について</p>

資 料

市立高校の生徒を対象としたアンケート調査結果

- 1 アンケート対象：福岡市立 4 校の全生徒（1～3 年生）
- 2 実施方法：Google フォームによる回答
- 3 調査日：令和 5 年 9 月 2 5 日（月）から 1 0 月 6 日（金）まで
- 4 アンケート回答状況

市立 4 校	1年	2年	3年	回答人数
回答人数	1,128	991	1,047	3,166
在籍数	1,232	1,196	1,195	3,623
回答率	91.6%	82.9%	87.6%	87.4%

〔学校別〕

博多工業	1年	2年	3年	回答人数	在籍数	回答率
機械科	71	45	57	173	239	72.4%
インテリア科	38	37	34	109	116	94.0%
建築科	35	34	28	97	119	81.5%
画像工学科	35	29	35	99	118	83.9%
自動車工学科	38	18	33	89	116	76.7%
電子情報科	40	19	34	93	120	77.5%
計	257	182	221	660		
在籍数	279	277	272	828		
回答率	92.1%	65.7%	81.3%	79.7%		

福岡女子	1年	2年	3年	回答人数	在籍数	回答率
服飾デザイン科	39	35	28	102	110	92.7%
食物調理科	36	31	36	103	114	90.4%
保育福祉科	34	36	36	106	115	92.2%
生活情報科	36	33	35	104	113	92.0%
国際教養科	24	22	33	79	102	77.5%
普通科	111	107	95	313	351	89.2%
計	280	264	263	807		
在籍数	312	294	299	905		
回答率	89.7%	89.8%	88.0%	89.2%		

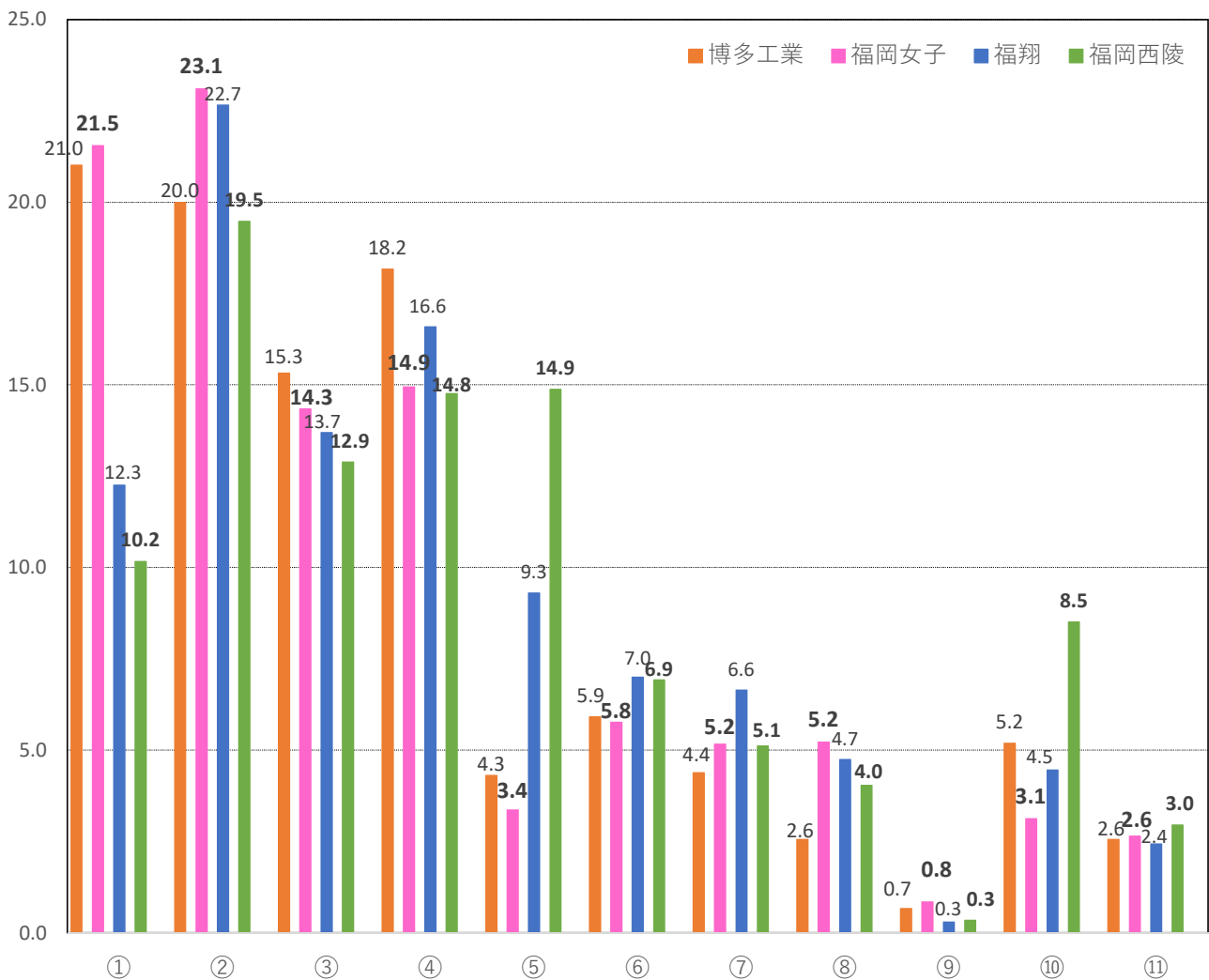
福翔	1年	2年	3年	回答人数
総合学科	294	260	262	816
在籍数	324	316	314	954
回答率	90.7%	82.3%	83.4%	85.5%

福岡西陵	1年	2年	3年	回答人数
普通科	298	286	299	883
在籍数	317	309	310	936
回答率	94.0%	92.6%	96.5%	94.3%

問1 あなたが、高校を選ぶときに参考にした情報は何か。(3つまで選択)

単位: %

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 高校のホームページ	21.0	21.5	12.3	10.2
② 高校のオープンスクールや説明会	20.0	23.1	22.7	19.5
③ 中学校の先生からの意見	15.3	14.3	13.7	12.9
④ 保護者からの意見	18.2	14.9	16.6	14.8
⑤ 塾の先生からの意見	4.3	3.4	9.3	14.9
⑥ 友人から意見	5.9	5.8	7.0	6.9
⑦ 先輩からの意見	4.4	5.2	6.6	5.1
⑧ インターネットのウェブサイト (高校のHP以外)	2.6	5.2	4.7	4.0
⑨ 新聞・テレビ・情報誌	0.7	0.8	0.3	0.3
⑩ 特になし	5.2	3.1	4.5	8.5
⑪ その他	2.6	2.6	2.4	3.0



調査結果の概要

- 市立4校の生徒全体として「高校のオープンスクールや説明会」「保護者からの意見」と回答した割合が高い。
- 博多工業高校、福岡女子高校の生徒については、「高校のホームページ」も参考にした生徒も多い。
- 福翔高校、福岡西陵高校に在籍する生徒については、「中学校の先生からの意見」「塾の先生からの意見」を参考にした生徒も多い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- オープンスクールで先輩が優しくて体験内容が楽しかった。
- インテリアデザイナーを目指しており、それに直結している学校探して博多工業高校のサイトを見た。
- 自分は物作りの道へ進みたかったので、設備が充実している博多工業で技術を学ぼうと思いこの学校を選んだ。

（福岡女子）

- 資格取得に興味を持った。
- コースに応じたカリキュラムで決めた。
- 自分の学力的にいける学校を探した。

（福翔）

- 総合学科という教科選択に魅力があった。
- 商業を勉強しとくと将来に役立つと親から聞いた。
- 自分に合った学力の学校を家族や先輩、先生などに聞いて探した。

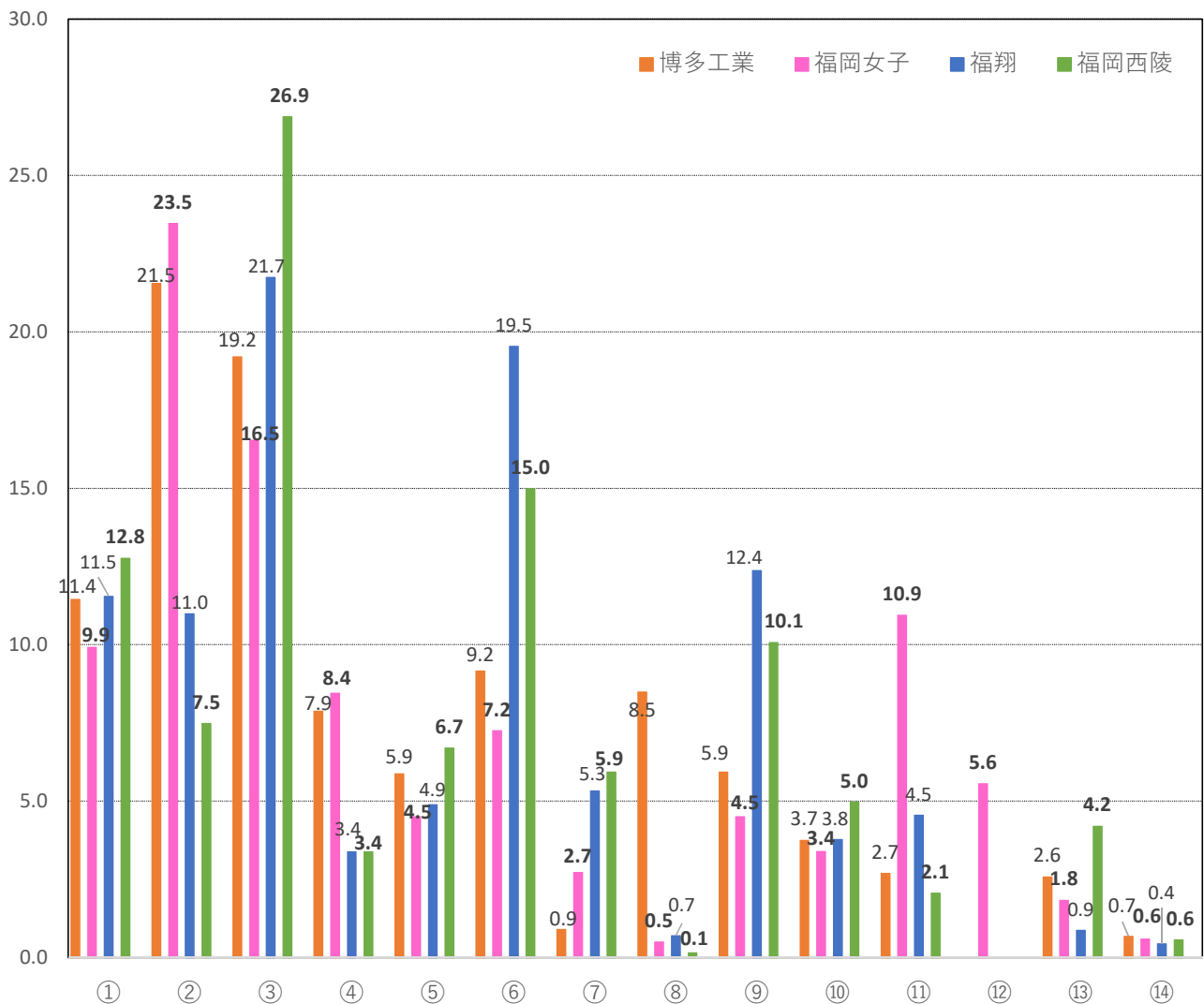
（福岡西陵）

- 高校のパンフレットに魅力を感じた。
- 自分の偏差値と合っていた。
- 姉が通っていて楽しそうにしていたことと、家から近かったこと。

問2 あなたは、高校を決める際、どのような点を重視しましたか。(4つまで選択)

単位:%

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 学校のイメージ	11.4	9.9	11.5	12.8
② 設置されている学科・コース・教育内容	21.5	23.5	11.0	7.5
③ 自分の学力・能力・適性	19.2	16.5	21.7	26.9
④ 施設・設備、周囲の環境	7.9	8.4	3.4	3.4
⑤ 保護者、中学校、塾の先生などの助言	5.9	4.5	4.9	6.7
⑥ 通学時間	9.2	7.2	19.5	15.0
⑦ 大学などへの進学実績	0.9	2.7	5.3	5.9
⑧ 企業、公務員などへの就職実績	8.5	0.5	0.7	0.1
⑨ 部活動の状況	5.9	4.5	12.4	10.1
⑩ 学費	3.7	3.4	3.8	5.0
⑪ 制服	2.7	10.9	4.5	2.1
⑫ 女子高校 ※福岡女子高生徒のみ回答	-	5.6	-	-
⑬ 特にない	2.6	1.8	0.9	4.2
⑭ その他	0.7	0.6	0.4	0.6



調査結果の概要

- 市立4校の生徒全体として「自分の学力・能力・適性」を重視したという生徒の回答割合が高い。
- 博多工業高校、福岡女子高校に在籍する生徒については、「設置されている学科・コース・教育内容」を重視したという回答割合が高い。
- 福翔高校、福岡西陵高校に在籍する生徒については、「通学時間」を重視したという回答割合が高い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- どんなことが学べるのか。目指す進路に対する学びを得ることができるのかを考え決めた。
- 市立で就職できる高校であることを条件として考えていたので授業内容や就職実績を見ながら考えた。
- 検定や資格がたくさん取れ、サポートもしっかりしている。

（福岡女子）

- 調理師免許を取れるのが良いと思った。
- 公立で保育を勉強できる場所は福女しかなかった。
- 第二外国語を学べること、国際交流の機会が多いことに魅力を感じた。

（福翔）

- 総合学科が自分に適していると思った。
- 距離が近く、グローバルコースで商業の資格を取れると聞いたので選んだ。
- 部活動と勉強を文武両道で頑張れると聞いたので、その意見を参考にした。

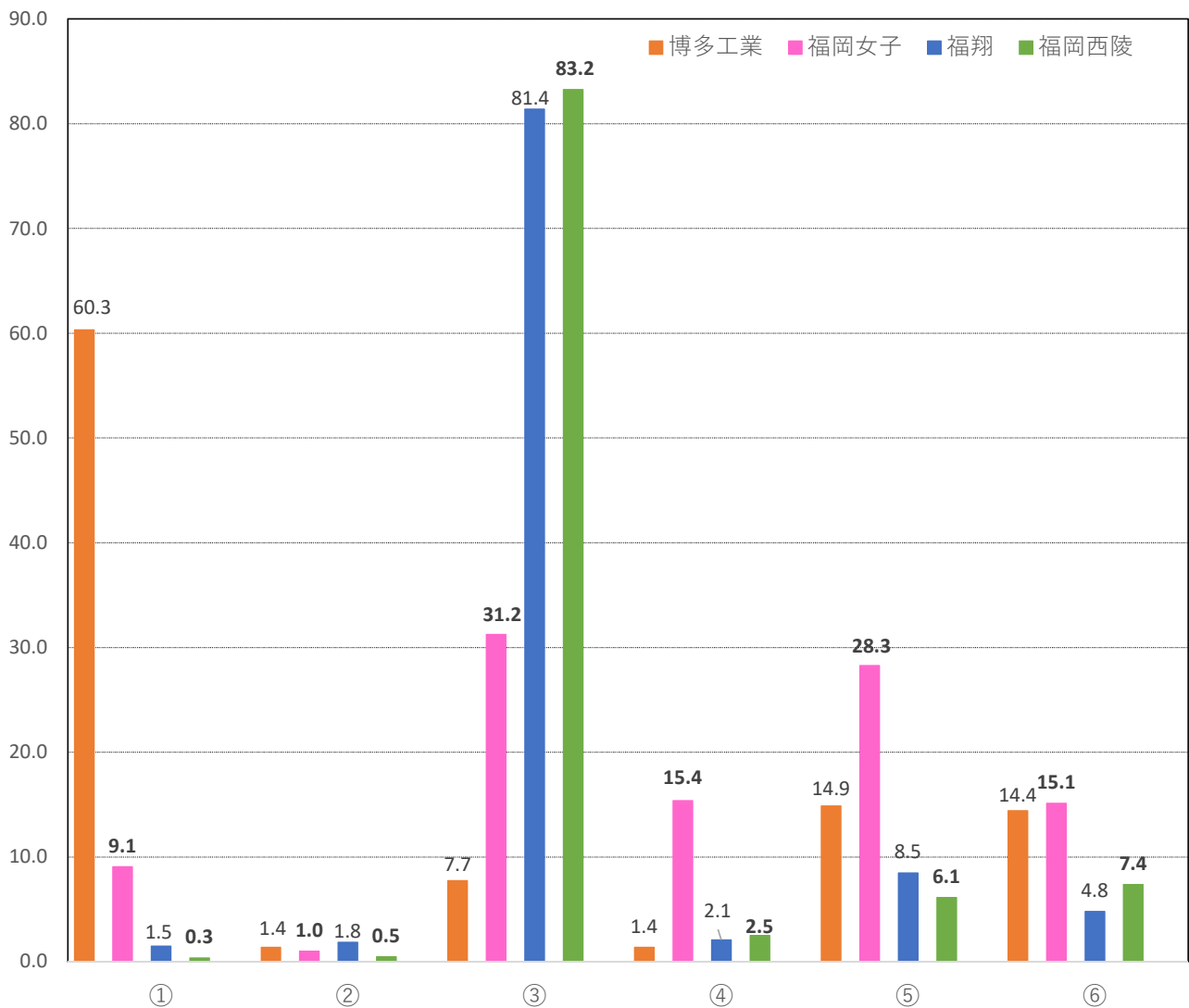
（福岡西陵）

- 先生や生徒の雰囲気も重視した。
- 国際交流や海外留学ができる学校に行きたかった。
- 総探が他の学校にはなかった活動だったので魅力を感じた。

問3 高校卒業後、希望する進路について教えてください。

単位：%

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 就職（企業）	60.3	9.1	1.5	0.3
② 就職（公務員）	1.4	1.0	1.8	0.5
③ 進学（大学）	7.7	31.2	81.4	83.2
④ 進学（短大）	1.4	15.4	2.1	2.5
⑤ 進学（専門学校）	14.9	28.3	8.5	6.1
⑥ その他、未定	14.4	15.1	4.8	7.4



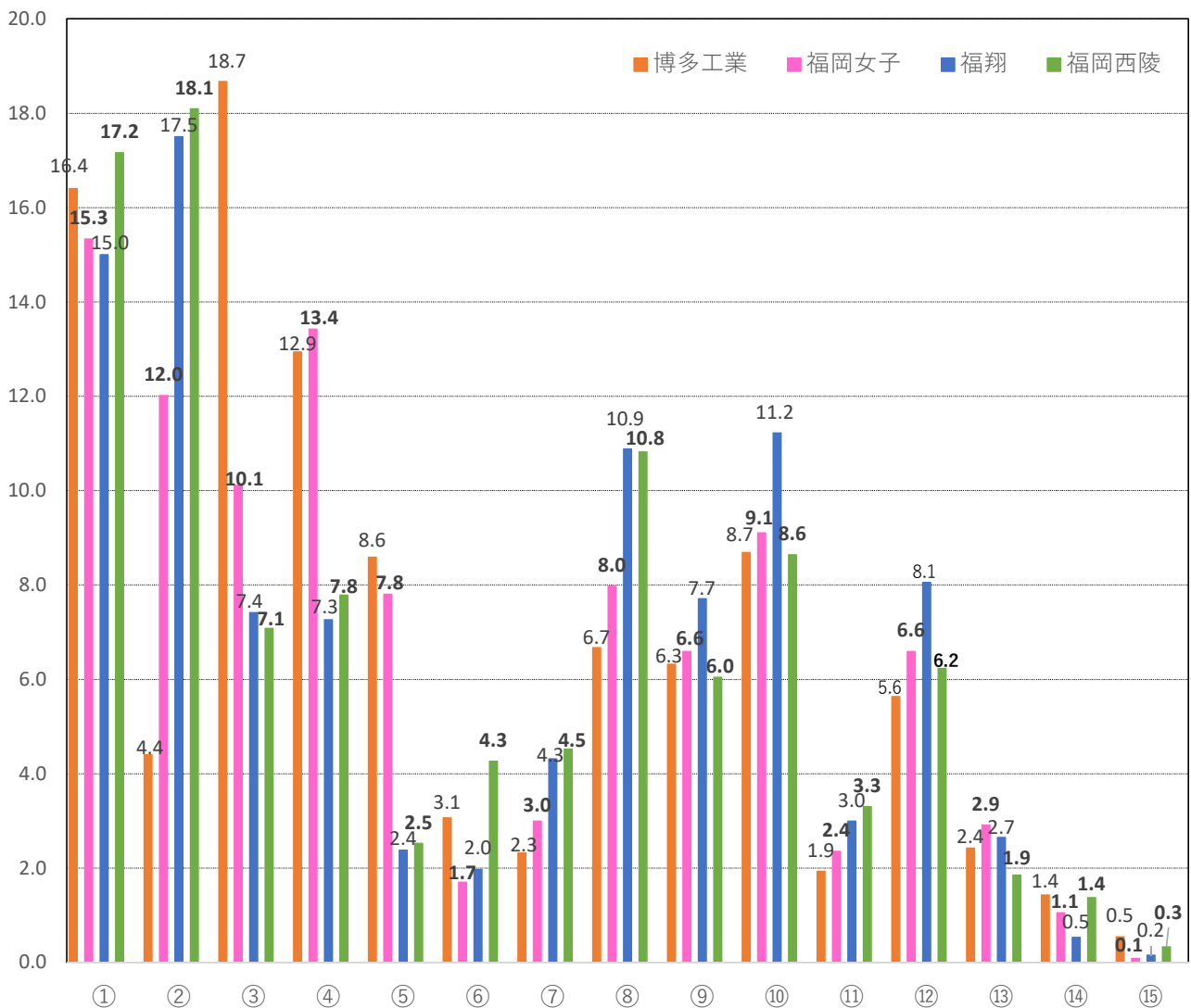
調査結果の概要

- 博多工業高校に在籍する生徒の約60%が就職、24%が進学を希望している。進学希望の割合は、大学が8%、短期大学は1%、専門学校は15%となっている。
- 福岡女子高校に在籍する生徒の74%は、進学を希望しており、内訳としては4年制大学が31%、短期大学は15%、専門学校は28%となっている。就職希望者の割合は、10%となっている。
- 福翔高校に在籍する生徒の92%は、進学を希望している。内訳としては4年制大学が81%、短期大学は2%、専門学校は9%となっている。就職希望者の割合は、3%となっている。
- 福岡西陵高校に在籍する生徒の92%は、進学を希望している。内訳としては4年制大学が83%、短期大学は3%、専門学校は6%となっている。就職希望者の割合は、1%となっている。

問4 あなたが、高校生として身につけたい(身につけた)ことは何ですか。(4つまで選択)

単位:%

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 基本的な学力	16.4	15.3	15.0	17.2
② 進学に対応できる学力	4.4	12.0	17.5	18.1
③ 就職に活かすことができる知識や技能	18.7	10.1	7.4	7.1
④ 自分が興味のある分野の専門的な知識・技能	12.9	13.4	7.3	7.8
⑤ 専門分野や語学に関して取得できる資格(検定など)	8.6	7.8	2.4	2.5
⑥ ITやAIなど情報化社会に対応できる力	3.1	1.7	2.0	4.3
⑦ 国際社会で活躍できるコミュニケーション能力	2.3	3.0	4.3	4.5
⑧ 自ら考え、判断し、問題を解決できる力	6.7	8.0	10.9	10.8
⑨ 何事にも挑戦するチャレンジ精神	6.3	6.6	7.7	6.0
⑩ 社会人として必要なマナーや礼儀、責任感	8.7	9.1	11.2	8.6
⑪ チームを課題解決に導くリーダーシップ	1.9	2.4	3.0	3.3
⑫ 他人を思いやり、いのちを大切にする心	5.6	6.6	8.1	6.2
⑬ 健康に生きるための知識や生活習慣	2.4	2.9	2.7	1.9
⑭ 特にない	1.4	1.1	0.5	1.4
⑮ その他	0.5	0.1	0.2	0.3



調査結果の概要

- 市立4校全体として多くの生徒が「基本的な学力」と回答している。
- 進学希望者の割合が高い福翔高校、福岡女子高校、福岡西陵高校では「進学に対応できる学力」と回答する生徒が多い。
- 就職希望者の割合が高い博多工業高校では「就職に活かすことができる知識や技能」と回答する生徒が多い。
- 「自ら考え、判断し、問題を解決できる力」は、福翔高校、福岡西陵高校の生徒に回答が多い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- 専門的な資格を沢山取りたい。
- 情報化に対応できる知識や技術、社会人になったとき必須な知識、礼儀などを身につけたい。
- コミュニケーション能力を強化したい。

（福岡女子）

- 社会に出て必要なパソコンの知識やビジネスマナーの知識を身につけることができた。
- なりたい自分や将来の自分のことを考え、たくさん行動しチャレンジしたい。
- 英語に焦点を当てつつ、国連ハビタット等との交流を通して世界の社会問題について学ぶことができた。

（福翔）

- 大学進学に対応できるような学力を身につけたい。
- 社会人になっていくための基礎を学び、しっかりとした人になりたい。
- 学業面での成長を大きな目標としている。

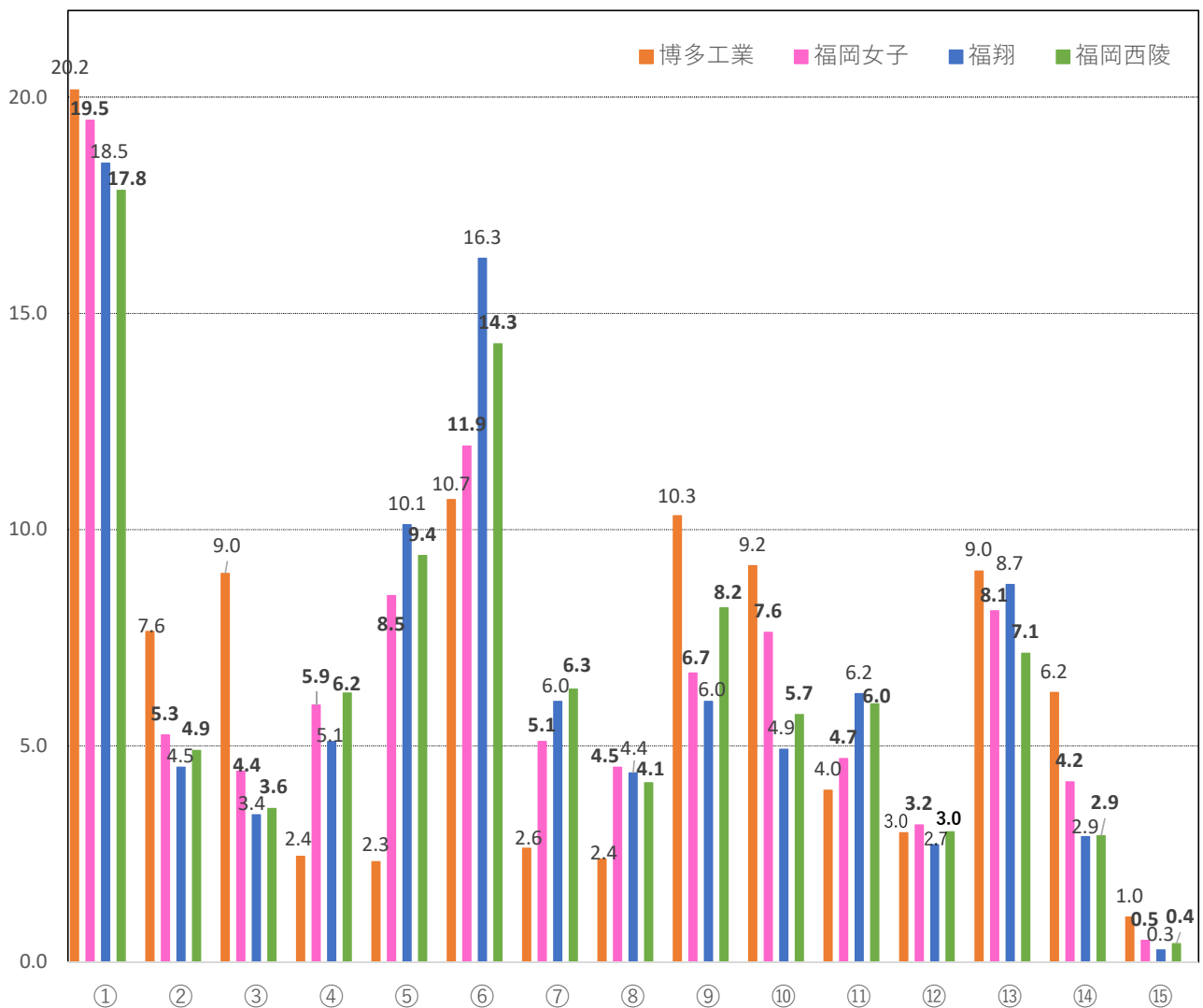
（福岡西陵）

- 高校でいろんなことを経験して、社会でそれを活用していきたい。
- 自分の意見を人に表現できるような人になりたい。
- 総合的な探究の時間で、チーム全体で主体的に考え行動していく力が、身についた。

問5 自分の高校の授業において、もっと良くしていくためには何が必要だと思いますか。(4つまで選択)

単位:%

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする	20.2	19.5	18.5	17.8
② 教科(学科)の枠を超えた総合的な学習を行う	7.6	5.3	4.5	4.9
③ 企業などから講師を招いて、職業選択に役立つような授業を行う	9.0	4.4	3.4	3.6
④ 大学などから講師を招いて、進路選択に役立つような授業を行う	2.4	5.9	5.1	6.2
⑤ 大学などへの進学に対応した学力を高める授業を充実させる	2.3	8.5	10.1	9.4
⑥ 理解が不十分な教科・科目の内容を、学び直すことができる機会を多くつくる	10.7	11.9	16.3	14.3
⑦ 異文化体験や外国人との交流などの機会を充実させる	2.6	5.1	6.0	6.3
⑧ 少人数を対象とする指導形態を取り入れる	2.4	4.5	4.4	4.1
⑨ ICT機器(タブレット)等を積極的に活用した授業を充実させる	10.3	6.7	6.0	8.2
⑩ 実習や体験学習(インターンシップなど)を多く取り入れる	9.2	7.6	4.9	5.7
⑪ 個人の学習に対する理解の程度(習熟度)に即した指導形態をとる	4.0	4.7	6.2	6.0
⑫ プレゼンテーションなど研究発表の場を多く取り入れる	3.0	3.2	2.7	3.0
⑬ グループ学習などの対話的な学びの機会を増やす	9.0	8.1	8.7	7.1
⑭ 特になし	6.2	4.2	2.9	2.9
⑮ その他	1.0	0.5	0.3	0.4



調査結果の概要

- 市立4校とも「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする」と回答する生徒の割合が最も高く、次いで「理解が不十分な教科・科目の内容を、学び直すことができる機会を多くつくる」となっている。
- 進学希望者の割合が高い福翔高校、福岡女子高校、福岡西陵高校では「大学などへの進学に対応した学力を高める授業を充実させる」と回答する生徒も多い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- 基礎的な科目の授業内容のレベルを上げてほしい。（英語など）
- 機械を学びたいが、コンピュータも学びたい。
- 経済や経営についても詳しく学びたい。

（福岡女子）

- コースに応じた学習授業を、基礎学習にプラスして行う事が必要だと思う。
- カリキュラムが専門分野に特化しているのはすごくいいと思うけど、大学入試対策の授業なども取り入れて欲しい。
- オンラインなどを通して国際交流を増やすなど、もっとICTを活用すべき。

（福翔）

- ボランティアや国際交流のイベントなどの情報が必要と思う。
- いろいろな職業の内容を学ぶ機会や、実際に話が聞ける機会などがあつたらいいと思う。
- ICTなどをもっと使うことによって効率よく授業ができると考える。

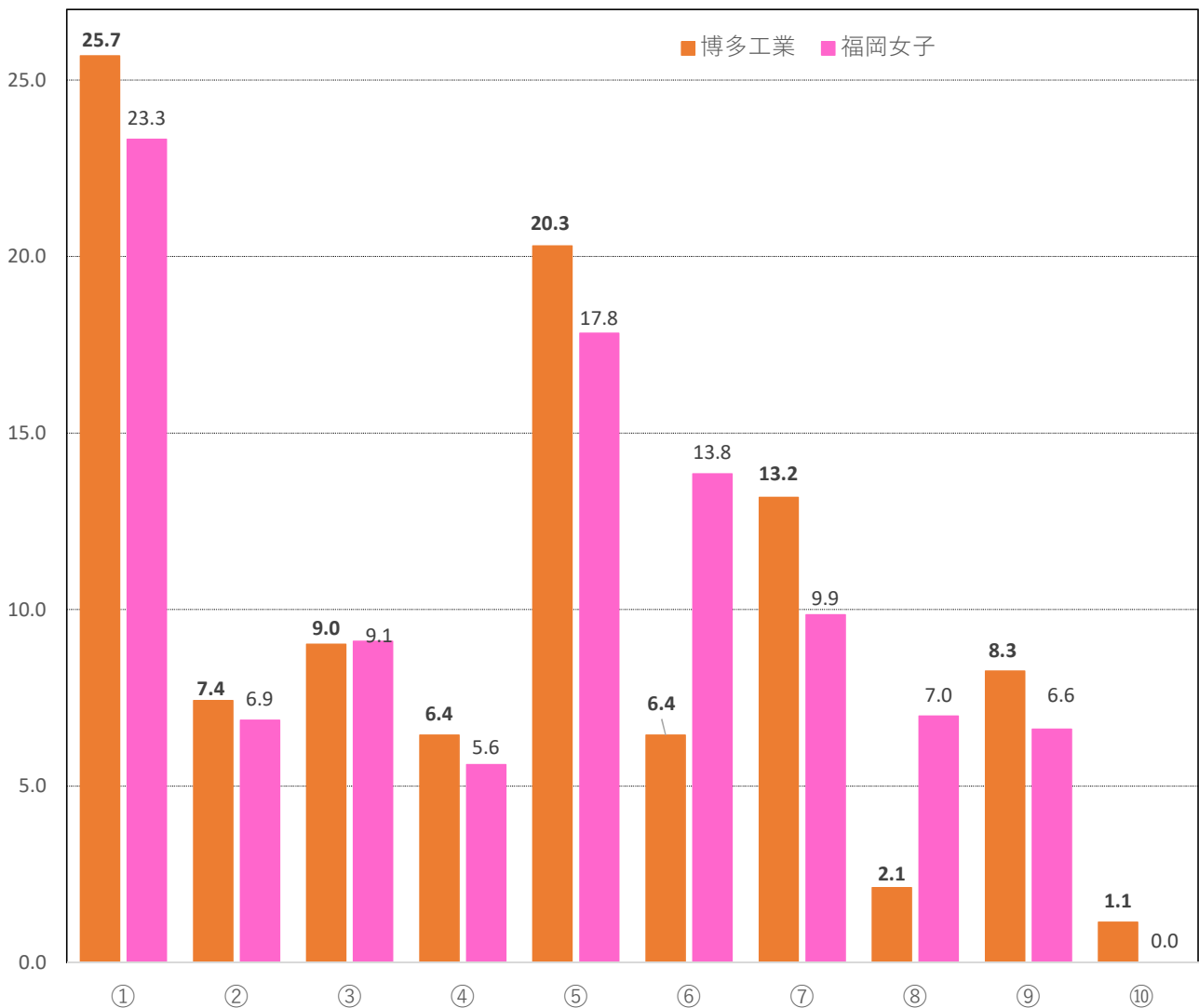
（福岡西陵）

- 大学のこと、試験の仕組みについて時間をかけて教えて欲しい。また、文理選択時に大学の講師や企業の方の講義があつたら良い。
- 進路や仕事について知る機会があると、働くことのイメージがつきやすくなり、進路を選びやすくなると思う。
- グループ学習は人に教える学習過程を通して、自分の身に入っていない部分を可視化できるし、なにより楽しく積極的に学べるのが魅力的だと思う。もっと、グループ学習を増やしてほしい。

問6 専門学科において、もっと良くしていくためには何が必要だと思いますか。(3つまで選択)

単位：%

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 学科の専門性に特化した実習の時間を増やす	25.7	23.3	—	—
② 他学科の専門的知識や技術も横断的に学ぶことができる	7.4	6.9	—	—
③ 入学後、別学科へ変更できる	9.0	9.1	—	—
④ 学年全体で学科を超えたクラス編成をする	6.4	5.6	—	—
⑤ 資格取得につながる学習や実習等を充実させる	20.3	17.8	—	—
⑥ 進学に対応できる学習の機会を増やす	6.4	13.8	—	—
⑦ 企業などから専門的な技術を学ぶことができる	13.2	9.9	—	—
⑧ 大学などから専門的な知識を学ぶことができる	2.1	7.0	—	—
⑨ 特にない	8.3	6.6	—	—
⑩ その他	1.1	0.0	—	—



調査結果の概要

- 博多工業高校、福岡女子高校ともに「学科の専門性に特化した実習の時間を増やす」と回答した生徒の割合が高く、次いで「資格取得につながる学習や実習等を充実させる」となっている。
- 博多工業高校では、「企業などから専門的な技術を学ぶことができる」と回答する生徒の割合も高い。
- 福岡女子高校では、「進学に対応できる学習の機会を増やす」と回答する生徒の割合も高い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- 働いた時に役に立つような実務的な実習の時間を増やしてほしい。
- 自動車はさまざまな技術の結晶とも言えるので、特に配線やコンピュータ関係の学びはやっておいて損はないような気がする。
- 自分の学科以外の生徒とも関わりがあった方が刺激があり、学科だけで学べる内容には限りがある。専門的な知識を実際に働いている人から学べる場は貴重だと思う。
- 様々な資格をより多く取れるようになった方が良い。

（福岡女子）

- 実際に現場で活躍している人からの話は役に立つと思う。
- 学科の授業時間を増やすことで自分が学びたいことをさらに学ぶことができると思う。
- 家庭科の学習が多いので進学の勉強もしたいと思った。
- もっと検定に力を入れるべき。

問7 あなたの学校の良さについて教えてください。

生徒のコメント (一部)

(福翔)

- 部活動と勉強を両立できる。
- 総合学科なので普通科では学べないことを学ぶことができる。
- 学校全体の雰囲気が良い。
- 様々な進路を実現できる。それに伴い大人になって様々な情報網がある。
- 学校全体が明るく、生徒自身で考え行動できる場面が多い。
- 部活動がとても盛んで、環境や設備も整っており進路実績が良い。
- 将来が決まっていればその将来の夢に向かって重点的に勉強ができる。
- 総合学科で幅広い分野で学べる。
- 2年生から自分の進路にあった教科を学ぶことができる。株を使った会社を立ち上げることができる。
- 豊富な選択科目で自分に合った科目を選べる。

(博多工業)

- 部活が工業に関する部活もあり、工業の就職をしたい人や工業に興味がある人が授業以外でも学べる。
- 専門科目の色々な幅広い学習内容が学べる。
- 工業高校でしか学べない専門的なことを、実習を通して身につけることができる。
- 広くて設備が充実している。
- 就職にも進学にも対応できる。
- 就職率がとても良い。
- 資格取得に力を入れている所、施設設備がしっかりしている所。
- 専門学科だけではなく人として成長ができる。
- 博多工業高校でしか身につけることができないものがある。
- 工業系の学校なので社会の礼儀などを学べることから、社会に出た時に他の学校より少し有利である。

(福岡女子)

- 一人一人の個性が輝ける。検定などいろんなことに挑戦できる機会が多い。
- 講堂など施設、設備が充実している。
- 専門的な知識や社会に活かせる技術を細かく学べる。
- 制服が可愛いところ、公立だけど設備が整っているところ。
- 女子だけの学校である分思いっきり学校生活を楽しめている。
- 自分の将来に役立つ学習ができる。
- 活気があり、和気あいあいとした雰囲気を持っている。
- それぞれ自分の興味、関心のあることを深く学べる。
- 一人一人が物事にきちんと向き合っていて協力し合えること、行事にも全力で取り組めるところ。勉強に集中して取り組める場所、環境がある。
- 実際に外国から来てくださった先生方がいてとてもわかりやすく授業を受けることができている。

(福岡西陵)

- 学校の雰囲気がいい。
- 挨拶などの礼儀に対する教育が熱心である。
- 行事など生徒の自主性が尊重される。
- イベントが充実している。
- タブレットをうまく活用した学習ができる。
- 大学進学に必要な知識を十分に得られる。
- 異文化交流が充実している。
- 総探が他校より優れている。
- ICTを使う場面が他校に比べて多いと思うところ、国際交流が盛んなところ。
- 総合的な探究の時間で問題、課題に取り組み考える力、コミュニケーション力が上がる。
- 進路サポートが手厚いところ。

全国の共学化の状況

年	女子のみの公立高校が共学化した事例
1991(H3)	○岩手県立花巻南高校 共学化 ○山形県立酒田西高校 男子3名入学 共学化
1993(H5)	○青森県立青森西高校 共学化 ○茨城県立下妻第二高校 男女共学推進指定校 ○(群馬県)伊勢崎市立女子高校→伊勢崎市立伊勢崎高校(共学)△
1994(H6)	○茨城県立土浦第二高校 共学化 ○(群馬県)高崎市立女子高校→高崎市立高崎経済大学附属高校(共学)△ ○石川県立田鶴浜女子高校→石川県立田鶴浜高校(共学)△
1995(H7)	○青森県立弘前中央高校 人文科△男子入学 ○福島県立福島西女子高校→福島県立福島西高校(共学)△ ○福島県立須賀川女子高校→福島県立須賀川桐陽高校(共学)△ ○茨城県立水海道第二高校 共学化 ○茨城県立下館第二高校 共学化 ○茨城県立鉾田第二高校 共学化 ○新潟県立六日町女子高校→新潟県立八海高校(共学)△ ○石川県立金沢女子高校→石川県立金沢伏見高校(共学)△ ○岐阜県立大垣女子高校→岐阜県立大垣桜高校(共学)△
1996(H8)	○(石川県)小松市立女子高校→小松市立高校(共学)△
1997(H9)	○青森県立八戸東高校 普通科共学化 ○福島県立白川女子高校→福島県立白河旭高校(共学)△ ○(埼玉県)川口市立川口女子高校→川口市立川口総合高校(共学)△ ○新潟県立新潟中央高校 音楽科設置(男子受け入れ) ○富山県立高岡女子高校→富山県立高岡西高校(共学)△ ○岐阜県立岐阜第一女子高校と岐阜県立岐阜西工業高校 →岐阜県立岐阜総合学園高校(共学)△ ○静岡県立掛川東高校 共学化
1998(H10)	○福島県立郡山女子高校→福島県立郡山東高校(共学)△ ○広島県呉豊栄高校(呉市設立)→呉市立呉高校(共学)△
1999(H11)	○静岡県立磐田北高校 共学化 ○山口県立山口中央高校 共学化
2000(H12)	○静岡県立藤枝西高校 共学化
2001(H13)	○福島県立安積女子高校→福島県立安積黎明高校(共学)△ ○福島県立磐城女子高校→福島県立磐城桜が丘高校(共学)△ ○富山県立新川女子高校→富山県立新川みどり野高校(共学)△ ○富山県立砺波女子高校→富山県立となみ野高校(共学)△
2002(H14)	○福島県立会津女子高校→福島県立葵高校(共学)△ ○富山県立富山女子高校→富山県立富山いずみ高校(共学)△
2003(H15)	○福島県立福島女子高校→福島県立橘高校(共学)△ ○福島県立相馬女子高校→福島県立相馬東高校(共学)△ ○埼玉県立常盤高校 共学化 ○千葉県立佐原女子高校→千葉県立佐原白楊高校(共学)△ ○岐阜県立坂下女子高校→岐阜県立坂下高校(共学)△ ○山口県立長府高校 共学化 ○山口県立下関南高校 共学化

	○大分県立大分女子高校→大分県立大分西高校（共学）△
2004(H16)	○岩手県立北上翔南高校 共学化 ○千葉県立松戸高校 共学化 ○千葉県立茂原高校 共学化 ○千葉県立大多喜女子高校→千葉県立大多喜高校（共学）△ ○千葉県立若葉看護高校（女）→千葉県立幕張総合高校（共学）△ ○静岡県立三島北高校 共学化 ○大阪府立白菊高校 閉校
2005(H17)	○宮城県角田女子高校と宮城県角田高校（男）→宮城県角田高校（共学）△ ○宮城県築館女子高校と宮城県築館高校（男）→宮城県築館高校（共学）△ ○宮城県鼎が浦高校（女）と宮城県気仙沼高校（男）→宮城県気仙沼高校（共学）△ ○宮城県古川女子高校→宮城県古川黎明高校（共学の中高一貫校）△ ○宮城県矢本高校→宮城県東松島高校（共学）△ ○群馬県立伊勢崎女子高校→群馬県立伊勢崎清明高校（共学）△ ○群馬県立藤岡女子高校と群馬県立藤岡高校（男）→群馬県立藤岡中央高校（共学）△ ○群馬県立境高校（女）と群馬県立伊勢崎東高校（男） →群馬県立伊勢崎高校（共学）△ ○群馬県立太田西女子高校→群馬県立太田フレックス高校（共学）△ ○埼玉県立行田進修館高校と埼玉県立行田工業高校と埼玉県立行田女子高校 →埼玉県立進修館高校（共学）△ ○千葉県立御宿高校（女）と千葉県立勝浦高校→千葉県立勝浦若潮高校（共学）△ ○千葉県立佐倉東高校 共学化 ○岐阜県立岐阜女子商業高校と岐阜県立各務原東高校 →岐阜県立岐阜各務野高校（共学）△ ○岐阜県立養老女子商業高校と岐阜県立大垣農業高校 →岐阜県立大垣養老高校（共学）△ ○静岡県立清水西高校 共学化 ○静岡県立静岡城北高校 共学化 ○（静岡県）浜松市立高校 共学化 ○奈良県立北和女子高校と奈良県立田原本農業高校→奈良県立磯城野高校（共学）△ ○高知県立高知丸の内高校 共学化
2006(H18)	○宮城県石巻女子高校→宮城県石巻好文館高校（共学）△ ○栃木県立小山城南高校 共学化 ○千葉県立松尾高校 共学化 ○千葉県立野田高校（女）と千葉県立野田北高校→千葉県立野田中央高校（共学）△ ○（滋賀県）守山市立守山女子高校 →立命館守山中学校・高等学校△（私学に移管共学化）
2007(H19)	○秋田県立由利高校 共学化 ○栃木県立足利西高校（女）と栃木県立足利商業高校 →栃木県立足利清風高校（共学）△ ○群馬県立前橋東商業高校（女）と群馬県立前橋商業高校 →群馬県立前橋商業高校（共学）△ ○千葉県立銚子高校 共学化 ○愛知県立豊田東高校 共学化
2008(H20)	○宮城県第一女子高校→宮城県宮城第一高校（共学）△ ○秋田県立秋田北高校 共学化 ○秋田県立横手城南高校 共学化 ○栃木県立烏山女子高校と栃木県立烏山高校（男）→栃木県立烏山高校（共学）△ ○（埼玉県）熊谷市立女子高校 閉校 ○（長野県）長野市立皐月高校→長野市立長野高校（共学）△

2009(H21)	○（北海道）釧路市立北海道釧路星園高等学校（女） 閉校 ○（宮城県）仙台市立仙台女子商業高校と仙台市立仙台商業高校（男） →仙台市立仙台商業高校（共学） へ
2010(H22)	○宮城県第二女子高校→宮城県仙台二華高校（共学の中高一貫校） へ ○宮城県第三女子高校→宮城県仙台三桜高校（共学） へ ○宮城県白石女子高校と宮城県白石高校（男）→宮城県白石高校（共学） へ ○宮城県塩釜女子高校と宮城県塩釜高校→宮城県塩釜高校（共学） へ
2011(H23)	○栃木県立佐野女子高校→栃木県立佐野東高校（共学） へ
2012(H24)	○熊本県立第一高校 実質的に共学化
2013(H25)	○秋田県立能代北高校（女）と能代市立能代商業高校 →秋田県立能代松陽高校（共学） へ
2014(H26)	○秋田県立角館南高校（女）と秋田県立角館高校→秋田県立角館高校（共学） へ
2015(H27)	○山形県立鶴岡北高校 共学化
2016(H28)	○秋田県立大館桂高校（女）と秋田県立大館高校と秋田県立大館工業高校 →秋田県立大館桂桜高校（共学） へ
2018(H30)	○群馬県立吾妻高校（女）と群馬県立中之条高校→群馬県立吾妻中央高校（共学） へ
2021(R3)	○群馬県立桐生女子高校と群馬県立桐生高校→群馬県立桐生高校（共学） へ
2022(R4)	○栃木県立宇都宮中央女子高校→栃木県立宇都宮中央高校（共学） へ ○栃木県立足利女子高校と栃木県立足利高校→栃木県立足利高校（共学） へ

（各学校・教育庁のホームページ等から福岡市教育委員会高校教育課にて作成）

家庭科の学科改編の状況

自治体	概 要
東京都	○家庭学科と福祉学科の2つの学科を兼ね備えた高校を新たに設置。(令和3年度)
千葉県	○被服科、食物科を有する学校について、被服科を服飾デザイン科(平成4年度)に、食物科を調理国際科(平成7年度)に改編。
兵庫県	○食品加工科、生活科、普通科、農業科を有する学校を、総合学科へ改編。(平成10年度)

(各学校・教育庁のホームページ等から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

工業科の学科改編の状況

自治体	概 要
東京都	<p>○都立工業高校と専門学校の一貫した5年間で、企業等と連携してデジタル人材の育成を図る「Tokyo P-TECH」事業を開始。(令和3年度)</p> <p>○「工業高等学校」15校を「工科高等学校」に名称変更するとともに、一部学科を改編。(令和5年度)</p>
神奈川県	<p>○2つの工業高校を合併し工科高校を設立。1年次は総合技術科として全生徒が共通科目を学習。2年次以降は、生徒の興味・関心や進路・適性に合わせて6つの系から選択。(平成15年度)</p>
愛知県	<p>○デジタル化の進展による産業界のニーズ変化を踏まえ、「工業高等学校」などの14校を「工科高等学校」に名称変更するとともに、「IT工学」、「ロボット工学」等の学科を新設・改編。(令和3年度)</p>
京都府	<p>○「新たな価値を創造する人材」「グローバル化に対応できる人材」の育成を目的とし、2つの工業高校を統合。「進学型の専門学科」と「ものづくり・まちづくり系」の2学科を設置。(平成30年度)</p>
福岡県	<p>○情報工学科と電子工学科を有する学校において、学科を統合し電子情報工学科へ学科改編。(令和5年度)</p>
佐賀県	<p>○4学科を有する学校が、AI及びIoTの普及に対応した産業人材の育成に寄与することを目的とし、6学科へ学科改編。(機械科を機械科及び機械システム科に、電気科及び電子情報科を電気科、電子科及び情報システム科へ改編)(令和2年度)</p>

(各学校・教育庁のホームページ等から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

P-TECH 事業 (Pathways in Technology Early College High Schools)

<概要>

- ・教育行政、学校（高等学校、専門学校、短期大学）、企業がパートナーシップを結び、協働して IT 人材育成に取り組む。
- ・高等学校教育 3 年間と上級学校教育 2 年間（短期大学校、専門学校など）を統合した 5 年間の教育プログラム。
- ・連携企業は、メンタリング、職場訪問、社会人基礎力講座やプロジェクト実習等を提供し、生徒の実践スキルの修得を支援している。

[Tokyo P-TECH]

ものづくり人材など、社会の変化と期待に応える人材の育成を推進するため、専門高校における教育内容の改善・充実等を目指す。

[東京都立町田工科高等学校]

- ・令和 3 年度から、日本工学院八王子専門学校と 3 社の企業と連携。
- ・IT 関連企業や専門学校等の高等教育機関と連携し、IT 人材育成のための新たな教育プログラムを開発・実施。

(東京都教育庁のホームページ等から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

専攻科の事例

1 山梨県立甲府工業高等学校 専攻科（令和2年4月開設）

- ・ 定員は1学年20名で、機械系コース15名程度・電子系コース5名程度。
- ・ 工業系高校（県内6校）で機械系又は電気・電子・情報系に関する科目25単位以上取得して卒業した生徒が、さらに2年間高度な知識・技能を身に付けることができる教育課程。
- ・ 工業系高校3年、専攻科2年の合計5年間の工業教育を行うことで、県内企業で即戦力として活躍できる人材を育成。
- ・ 実習設備も最新鋭の設備を用意し、設備や工程の設計・生産性の検討等を担うことができる人材を育成。

2 三重県立四日市工業高等学校 専攻科（平成30年4月開設）

- ・ 定員は1学年20名で、機械コース、電気コース各10名程度。
- ・ 企業、団体、行政、学校の連携による実践的教育。
- ・ 三重大学教員による専門的な授業。
- ・ 海外でも通用するための英会話授業や海外・国内インターンシップ。
- ・ 各企業の経験を積んだ技術者・技能者による授業、年間30以上の企業・学校訪問。

3 愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科（平成28年4月開設）

- ・ 定員は1学年40名で、高度技術科20名（自動車・航空コース、電気制御コース各10名）、先端技術科20名（情報・ITコース、電子・ロボットコース各10名）。
- ・ 平成29年4月から公設民営化（指定管理法人：学校法人名城大学）を実施し、企業や大学等と連携。専攻科の教育課程は講義60%、実習40%で構成。
- ・ 生産現場の動向・ニーズに具体的かつ迅速に対応した教育。
- ・ 大学や企業からたくさんの経験豊富な指導者を招き、少人数で多様な教育を展開。
- ・ 工場見学、インターンシップおよびデュアルシステム型の企業実習を導入して、即戦力となる人材を育成。

（各学校のホームページ等から福岡市教育委員会高校教育課にて作成）

公立高等専門学校の学科・コースの状況

	機械・材料系	電気・電子系	情報系	その他
東京都立産業技術 高等専門学校 (S37.4 開設) 定員 320 名/学年	機械システム工学 生産システム工学	電気電子工学 電子情報工学	AI スマート工学 情報通信工学 ロボット工学	航空宇宙工学 医療福祉工学
大阪府立大学工 業高等専門学校 (S38.4 開設) 定員 160 名/学年	エネルギー機械	エレクトロ ニクス	知能情報	プロダクト デザイン
神戸市立工業 高等専門学校 (S38.4 開設) 定員 240 名/学年	機械工学科	電気工学科 電子工学科	—	応用化学科 都市工学科

(各学校のホームページ等から福岡市教育委員会高校教育課にて作成)

高等学校、専攻科、高等専門学校の比較

	高等学校	専攻科	高等専門学校
目的	中学校の課程を修了した生徒に高度な専門教育を施す。	高等学校を卒業した者等に対し、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する。	深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。
応募資格	中学校卒業	高校卒業等（工業科系卒に限定等）	中学校卒業 高等学校卒業（4年次への編入）
修業年数	3年	2年	5年 2年（高校からの編入）
資格・学位	高等学校卒	高等学校卒	準学士
教育課程	学習指導要領によって教育内容が決められている。	専攻科における教育課程については別段の規制がなく、企業ニーズによって自由に編成することが可能（大学に編入学することができる専攻科の課程の基準あり）	①一般科目と専門科目をくさび型に配当して、5年間一貫教育で効果的な専門教育を行っている。 ②卒業要件単位数は167単位以上 ③一般学級40人編成、学年制 ④専攻科の設置（卒業生の1～2割がそのまま専攻科へ進学）し、体系的に教育課程を編成するものとする。
進学	卒業後、大学、短期大学、専門学校へ進学可能。高専へは4年次へ編入可能。	卒業後、大学編入学が可能（平成28年度～）。	卒業後、専攻科への進学または大学編入学が可能。
1学年定員	280～320名 （福岡県内）	1学科10～20名 （他県の公立専攻科）	160～200名 （九州内の高専）
教員資格	・高校教員免許を有する者	・高校教員免許を有する者 ・企業・大学等で特定の分野に特に優れた知識、技術、技能及び経験を有する者（教員免許を付与）	・博士の学位を有するもの ・専門職学位を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者 ・大学又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴のある者など
特記事項		一定の基準を満たす教育内容とすることで、大学へ編入可能（H28.4～）	

（高校・専攻科は、三重県「三重県立高等学校専攻科設置検討委員会」資料から福岡市教育委員会高校教育課にて作成）

（高等専門学校は、文部科学省「各学校種における設置基準等の比較（別表2）」から福岡市教育委員会高校教育課にて作成）